

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|----------------|--|---|
| 北海道 | 札幌市立美しが丘緑小学校 | 学びとつながり、学びとつなげる子の育成 ～「つながり」をキーワードにした「6年間の深い学び」を創る～ | 「協働的な学び」を通して、互いの多様な見方・考え方を比べ、つなげ合い、質の高い学びのプロセスを経験することで、最適な解決方法や新たな価値を創出していくことができる。そして、学ぶ前の自分と学んだ後の自分を比べ、学びのプロセスを振り返ることで、自分の学びの変容を自覚し、子どもを深い学びへと導いていくことができる。 しかし、多様な見方・考え方のどこに焦点化し、どのように見方・考え方をつなげ合い、新たな学びへと導いていくかという教師の意図的・即時的な関わりの面で課題が残った。そこで、「つながる→つなげる→まとめる・振り返る」の「つなげる段階」を次年度の研究の重点とし、具体的な教師の関わりを探っていく。 |
| 宮城 | 気仙沼市立面瀬小学校 | 自分の考えをもち、行動する子供の育成 ～つながり かかわりを生かした授業づくりを通して～ | ○成果 (1)学習活動の見直し・カリキュラムマネジメント クロスカリキュラムの発想で単元開発を進め、教科横断的に学習を行ってきたことで、学びにストーリーが生まれ、効果的に進めることができた。児童は学習内容を相互に関連づけて理解して、考えを深めることができた。 (2)地域・教材・人の「つながり」「かかわり」を生かした授業実践 地域との連携を強化し、地域の人々とのかかわりや新たな知見を得ることで、主体的に学習を進める児童が増えてきている。児童相互に意見交換をしたり、他者の考えと比較したり、広がりのある学びがどの教科・領域の授業でも行われるようになった。 (3)児童の主体性の向上を目指した取組み 特別活動において、日常生活にある課題を丁寧に取り上げ、話し合っ解決に結びつける活動を積み重ねてきた。児童発の議題を採用するなど、児童の意識や意欲を大切に実践し、「提案し、話合う」よさを体感させることができた。 ○課題 今後は、小、中の9年間を見通した総合的な学習の時間の関連や生活科単元の充実を目指し、さらに改善を図っていく。より深い学びとなるように、児童の意見交流のさせ方や対話の質を高めさせるための工夫について研究していく。 |
| 山形 | 尾花沢市立尾花沢中学校 | 「わかる・できる」授業の創造 ～協働的な学びを通して～ | 授業中、生徒がわからないことをそのままにするのではなく、「ここはどうなるの？」と友達にきいて解決しようとする姿が見られ、「協働的な学び」が成立する場面が多くなった。授業に前向きに取り組む生徒が増えたため、アンケートで「学校は楽しい」と答えた割合が、生徒・保護者ともに9割を超えている。 また、「協働的な学び」という授業づくりに焦点を当てた学校研究を進め、教科の枠を越えて研修を深めることができた。その一方で、今後の課題としては、教材研究に力を入れて生徒を引きつけるために魅力的な課題づくりを行うこと、授業の中で生徒同士を繋ぐコーディネート力を高めることが挙げられる。 |
| 山形 | 南陽市立宮内小学校 | 未来を生きぬくたくましい鐘秀っ子の育成 ～「答えを持ち、場を創り、委ねる」という経営戦略のもとに～ | 1. 今年度の成果○と課題●について ①視点1(授業の入口と出口の工夫「意欲と実感」)について ○全員に課題を把握させるための工夫が見られた。 ○既習事項をいかして課題解決できるような教室掲示や学習の足跡を残す工夫が見られた。 ○学びの実感を味わい、次時にいかしていけるような単元構成の工夫がなされていた。 ○授業内容と日常生活や他教科と結びつけた学習活動が展開された。 ●次時が楽しみになるような出口、そして子ども達から課題が生まれる入口という点で研究を深めていきたい。 ●授業の学習活動を吟味し、まとめや振り返りの時間を確実に生み出す工夫も必要である。 ②視点2(考えを深め、広げる学び合いの工夫「共有」)について ○学習内容や発達段階に応じて学び合いの形態を理解することができた。それによって、友達の考えを意識するきっかけとなり、友達と自分を比べて考えることができるようになってきた。 ●話し合う内容が必要性的なものであったか、必然性のある場面だったかは今後さらに考えていく必要がある。 ○●ICTを積極的に取り入れた授業を参観でき、学びを深めたり広げたりする際の効果的な活用方法を学ぶことができた半面、操作の技能を習得する難しさも感じられた。 ●声の小さい児童が多い。日頃からの学習訓練と何でも話せる集団の雰囲気作りが大切だと感じた。 ③研究の方針について ○全体研究授業を1日2授業にしたことでたくさんの先生方の授業を参観できた。 ○指導主事の先生が派遣されない時は外部の講師の方にきていただいたおかげで、専門的な指導を仰ぐ機会が多く持つことができた。 ○学年部での事前研や事後研、学年での計画的な模擬授業の実施など、先生方の連携した研究への取り組みで深まりのある研究ができた。 ○●他教科における入・深・広・出の実践ができた。今後、教科の特性に応じた入・深・広・出システムの構築や、指導案の書き方などを検証していく必要がある。 ●「授業実践報告書」の作成の呼びかけが後手後手になってしまった。 ●先進校視察や、公開研究会の参加などの積極的な呼びかけができなかった。 ●研究推進委員会を定期的に持つことができなかった。 2. 次年度に向けて ・全体授業研究会と部会研究授業の実施でさらに研究に深まりを持たせていく。 ・今年度の学校研究のまとめを次年度に活かしてつなげていく。 |
| 山形 | 庄内町立余目第二小学校 | 特別支援教育Restart ～特別支援教育力が学校、学級経営を支える～ | 特別支援教育力は担任力の要である。本研究により、知識はあってもどう対処すればよいか苦慮していた職員が、チーム対応、専門的な支援活用などにより適切な指導を工夫するようになり、子ども理解をベースにした学級経営につながることができた。今後とも「気になる子」から「困っている子」支援へ、「早期対応」から更に「未然防止」へと気づく力を磨き、スピード感をもった対応ができるよう保護者や地域への啓発も含め、全校体制で取り組んでいきたい。 子ども達の状況は年々変化しているし、職員の入れ替わりも大きい。いつでも「特別支援教育Restart」の意識をもつことが大事であり、誰もが自信をもって対応できる体制と迅速に動く組織を機能させていきたいと思う。 |
| 山形 | 山形県立新庄神室産業高等学校 | 令和の時代に挑む最上産業人の育成を目指して ～自治体・企業・卒業生・中学生等を巻き込み産業高校のあるべき姿を追求する～ | 成果1 「縄文の女神プロジェクト」では、縄文の女神(山形県舟形町出土)をはじめ、中空土偶(北海道函館市)合掌土偶(青森県八戸市)縄文のビーナス(長野県茅野市)仮面の女神(同)の計5体の等身大レプリカに精巧な着色を施し、舟形町に寄贈。その後、役場庁舎入口に飾られ町民の関心を惹いている。 成果2 みちのくひめゆりを使った口紅は、山形舞妓がゆりの花を優しくかざすシールを貼ったリップケースもデザインされ、商品化を目指して鮭川村とのコラボが進んでいる。 成果3 人口減少が進む本地域にあつて、地元企業への入職者増は命題である。コロナウィルス感染症対策を施す中、地元企業30社が2年生120名程と面談会を実施した。生徒・企業とのひざ詰めのガイダンスとなり、次年度の開催も強く要望された。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|--|--|
| 福島 | 福島市立福島第三小学校 | <p>やわらかな感性で、しなやかに学び合う子どもの育成(第7期) ～子どもが自ら追求を続け、一人一人が考えを深める授業の創造～</p> | <p>○各教科・領域の特質に応じて、授業や単元のどの場面で問いの焦点化を図るかが明確になってきたことにより、問いを引き出し、共有させるための教師の働きかけが具体的にになり、問いの追究に向けて主体的に動き出す子どもの姿が見られた。 ○授業のねらいや求める子どもの姿を明確にしておくことにより、一見ねらいとはかけ離れた言動をする子どもの内面にある思いや考えにも寄り添い、ねらいへとつなげる働きかけを講じることができた。 ●子どもの問いは、学習の過程で刻々と変容していくものであることが見えてきた。教師は、そうした子どもの問いの変容を想定しておくとともに、追究の過程で変容していく子どもの問いを見取り、授業のねらいと照らし合わせて全体に共有させていくという構えをもつことが大切である。</p> |
| 福島 | 福島市立笹谷小学校 | <p>自ら学び、「学ぶ楽しさ」「わかる・できる喜び」を味わう子どもの育成 ～ユニバーサルデザイン視点を生かした授業づくりを通して～</p> | <p>柱1 授業のユニバーサルデザイン化について (1)焦点化について ○ 課題や学習活動の条件を絞ることにより、児童の解決方法を追究する意欲をもたせることができた。学習を進める条件を明確に示すことで、学習に取り組みやすくなったと考える。 ○ 日常的な事象や身近な場面を取り上げることで、児童の興味関心が高まり、解決しようとする必要感をもたせることにつながった。 ○ 具体物を提示することにより、児童の興味をひきつけることができた。しかけを作ることで、児童の注意や集中、意識をコントロールし、引きつけることができた。教材・教具の提示の仕方を工夫することは、児童に課題意識をもたせることにつながった。 ○ 既習事項を提示することにより、本時の学習と関連付け、学習の見通しをもたせることができた。学習のポイントや手順をカードにして提示したことも有効で、自力解決場面で手がかりとして活用することもできた 掲示物の情報量、場所など、掲示の仕方についても検討していく必要がある。ねらいを明確にし、児童の学習の助けとなる掲示を考えていきたい。 ○ ワークシートを使用することで、子どもたちの思考を整理することができた。また、どんな学習をするのかが分かり、どの児童も課題解決に取り組むことができた。 ● 教師が児童に気付かせたいことや考えさせたいことを明確にもっておく必要がある。そのうえで、手立てを講じていくようにしたい。児童の実態を丁寧に把握し、どんな学習活動をさせたいのかも精選していくことが必要である。それにより、時間配分を考え、児童に取り組ませたいことに十分な時間を費やすことができるようになるのではないかとと思われる。 (2)共有化について ○ 話し合いの形態を小集団から全体へと段階的に広げることにより、自信をもって発言することができた。また、小集団による話し合い活動の様子から、児童の意見を把握し、全体での話し合いで意図的指名することで、話し合いを深めることにつながった。また、交流する時間を設けることにより、活発な話し合いに結び付けることができた。 ○ 模型や写真、挿絵などの具体物を用意して、動作化やペア、グループでの話し合いを行ったことにより、読みの理解をさらに深めたり、根拠をもって話し合いをしたりすることができた。児童の考えをICT機器を活用して共有したり、比較・検討しやすい板書構成を工夫したりしたことで、互いの考えのよさに気づき、自分の学びに取り入れようとする姿が見られた。学び合いの場面での視覚的な手立ての有効性を改めて認識することができた。 ○ 学び合いの場面では、教師が児童に揺さぶりをかけたり、意図的に間違いを提示したりすることで、課題にいくつき、自分の考えを伝えようとする気持ちが高まった。言葉だけではなく、具体物の操作や動作化により表現させ、理解を深めていくことができた。 ● 児童のもつ話す・聞く力の差によって、話し合いが思うように進まないこともあった。また、一人一人の学習状況を把握し、個に応じて支援をしていく必要がある。 ● 児童同士の話し合いをつなぎ、理解を深めるための教師のコーディネート力を高めるための研鑽が必要である。児童の発言のよさを取り上げて価値付けたり、気づきを全体に広めたりして、話し合いを深めていくことも重要である。 ● ICT機器を活用して提示し、比較・検討しやすい板書構成の工夫に取り組んできた。学習の流れが分かり、学習を振り返る際にも活用できる板書の構成についても、検討したい。 ● 話し合いの意図をもち、形態等を考えることが必要である。 ○ 「焦点化」「共有化」の手立てについて、場面を絞って考えてきた。そのことにより、ねらいとまとめの整合性について、より一層慎重に吟味することに繋がった。また、児童に身に付けさせたい力を系統的にとらえようとする意識も高まった。どの教科においても授業のユニバーサルデザイン化を意識して授業を考えることにもなった。 ○ 授業実践を通して、視覚的な支援が有効であることが改めて認識することができた。授業場面以外でも、視覚的な支援の有用性が分かった。これは教師の発問や指示の精選にもつながり、児童の自主的な取り組みを促すことにもわかった。指示ではなく、称賛の機会を多くすることにもなる。児童に具体的に、分かりやすく示すための手立てとして今後も活用を図っていきたい。学校全体として歩調を合わせて取り組むことにより、環境が変わっても、児童が落ち着いて生活できるようにしていきたい。 ○ 児童の学習への関心や意欲を引き出すために、学び合いの場面で児童のつぶやきを取り上げたり、話し合いの形態を変えたりして発言場面を多く設定してきた。これらは、児童の実態をより丁寧にとらえていこうとする意識の高まりにつながった。児童の姿から学び、授業を考えていくという真摯な姿勢を忘れずに取り組んでいきたい。 ○ 教師による的確な指示や発問、児童の思考を基にした話し合いのコーディネートなど、教師自身の授業力の向上に向けて、研鑽を積んでいく必要がある。そのためにも、各学年やブロックで互いに授業を見合い、検証し合う研究を継続していきたい。 柱2 学習環境のユニバーサルデザイン化について ○ 教室内の掲示物等、授業に必要な情報とその他の情報を整理したことで、学びに集中できる環境づくりにつながった。刺激が減り、集中して学習に取り組めるようになった児童が多く見られた。身の回りの環境にある情報量の整理は、本時の学びの手助けとなる情報の精選という点で、特に、障がいのある児童や下位児にとっても有効であると言える。 ○ 学習用具の整備に写真を利用することで、見本を見ながら「必要な物がいつも揃っている」ことへの意識付けを図ってきた。写真があることで用具の置き場所が分かるため、教師の指示が減り、児童自身で探したり片付けたりすることにつながった。 ○ 各学年の発達段階や収納スペースの状況に合わせて学習用具を保管することによって、整理整頓への意欲付けや自主的な取り組みの促しに繋がっていった。 ○ 特別支援学級での授業実践では、一人一人が課題に集中できるように、ホワイトボードで仕切ったり、机の位置を変えたりした。これにより、一人一人が自分の課題に取り組もうとする姿勢が見られた。学習内容によって、教室内の配置を検討していきたい。 柱3 人的環境のユニバーサルデザイン化について ○ UDの視点を生かした授業展開により、学級の中で個別的な支援を要していた児童が、学習活動において、問題解決の方法を考えたり、習得した知識や技能を活用したりすることが、できるようになり、学習に対しての興味・関心が高まり学習意欲の向上につながった。 ○ 学習活動を通して、気付いたこと、分かったことなどの共有化を図ることが、児童相互の考え方、感じ方を認め合うことにつながり、それぞれのよさを認め合いながら学び合うという態度の育成につながった。学習活動を展開する上で、互いを認め合える雰囲気醸成し、安心してのびのびと学習できる学びの集団(学習集団)の育成につながったと考えられる。 ○ 学級づくり(学級経営)において、「だれにとっても楽しく、分かる授業」の展開は、教師と児童、児童と児童の相互理解を深めるために大きな役割を果たしている。 ○ 「授業がわかる」「授業が楽しい」「友達と学び合うことが楽しい」と感じた児童たちが、さらに、「この学級で学習するのが楽しい」「いろいろな問題が解けるようになり、家庭学習、自主学習もやりがいがある」と主体的に学習し、学力の定着が図られるようになってきた。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|---|
| 福島 | 伊達市立上保原小学校 | 伸ばそう考える力、育てよう伝え合う力(2年次) ～目的や方法を明確にした算数科における学び合いを通して～ | <p>「学び合い」を位置づけた授業実践に係る研究の成果 (単元全体構想の立案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「単元全体構想」を作成し、単元全体を見通した大きな構想の中で、いつ、どこで、何を指導していくのか、重点化・焦点化を図り進めてきた結果、「教えること」「考えさせること」「活動し学び合うこと」「習熟を図ること」のバランスを考えた指導を行うことができた。 (自分の考えを持つ) ○ 必要感のある課題を与える、絵図や電子黒板を使用し課題を視覚的にとらえさせることで、児童は解決の見通しを持つことができた。 ○ 考え方をワークシートにまとめた後にペアで説明させる学び合いの流れを作ることに、答えだけでなく、答えを導くための解き方をまとめる意欲や必要性を高めることができた。 (学び合い) ○ 学年の発達段階に応じて、ペアやグループ、自由交流等、話し合いの形態を工夫したことで、思考の整理ができ、新たな気付きが生まれ、進んで話し合おうとする意識が高まった。 ○ 自力解決後に考えの交流を行うことで、解決できない児童がつまづいているところを友達に聞いたり、解決した児童が考えを説明したり、単位時間に何も話さずに座っている児童がいなくなり、全児童が課題に真摯に向き合うことができる。 ○ 話し合う際は、「必ずペアで行うこと。」「三人以上の友達に説明しよう。」「男子にも女子にも説明しよう。」「ノートを指さしながら説明しよう。」等、具体的な目標を掲げたことで、意欲を持って交流することができた。 ○ 課題解決をあきらめてしまいがちな児童にとって、学び合いで教えてくれる友達(ミニ先生)の存在は、心強い支えになり、最後まで課題と向き合うことができた。 ○ グループで課題解決方法をまとめる活動では、複数の考えを比較検討し、よりよい考え方や分かりやすい説明の仕方一つに絞っていく点において児童の思考を深めることができた。 <p>【学び合いの必需品】 ・児童のネームマグネット ・ホワイトボード(発表ボード) ・自分のノート ・付箋 ・ミニ先生フォルダ 等</p> <p>(振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な到達度を提示した3段階の振り返り(◎○△)は、めあてに対して自分の到達度を客観的に自己評価することができた。 ○ 年度途中から「ふりかえりさしすせそ」(振り返る視点)を作成し、書き方を提示したことで、低学年児童も視点を絞り決まった書き方で書くことが身に付いた。 |
| 福島 | 本宮市立本宮小学校 | 互いの言葉を聞き合い、高め合う児童の育成 ～児童が主体的・対話的に学び合う授業を通して～ | <p>1. 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が意欲的に課題解決に取り組み交流し合うようになった。 ○課題解決のために、図や式、言葉などで表現することができる力が育った。 ○児童の姿が「よく考えたり調べたりして追究する」という姿に変わった。 <p>2. 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発展的・創造的な内容の自主学習を生かし、パワーアップタイムと連携して学び合いに生かしていくという取り組みについての研究も考えたい。 |
| 茨城 | 筑西市立大田小学校 | 学習指導要領移行期間における創意を生かした活力ある学校経営の実践 ～マネジメントサイクルを活用した授業改善への取組をとおして～ | <p>1 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種調査の分析結果から本校の実態と課題を共有し、職員 ○ 校務の効率化を図り、全職員で授業改善に取り組んだことで、問題解決型 ○ 大田小学校型授業スタイルの実践により、算数が好きな児童が増え、課題 <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年間指導計画の見直し等をとおして、教科横断的な教育課程の編成(カリ ○ 教育課程の実施状況を量だけでなく、質的にチェックできるシートの作成 |
| 群馬 | 群馬県立豊学校 | 幼稚園における子ども同士の伝え合いの力を育てる指導 ～幼児に相手意識を育てるための手立ての分析を通して～ | <p>1 授業研究(11月、5歳児、朝の話し合い)を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の支援として、幼児同士の伝え合いを促す仲立ちの手立て(拳で相手を指す)がよかった。 ○幼児が友達に対して伝わるように話すという相手意識の育ちが見えた。 ○「ショック」などという気持ちについて、具体的に表現できる支援の仕方が課題である。 <p>2 今後の研究に向けての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児同士のコミュニケーション手段(音声言語か手話かなど)の違いが伝え合いの壁となる。共通の手段の支援の仕方が課題である。 ○主体的な遊びから、発達に合わせた社会性の育成を考えていく。 |
| 群馬 | 藤岡市立平井小学校 | 主体的に学び、自分の考えを表現する児童の育成 ～合同校内研修を活用した学校間の連携・協働を通して～ | <p>主要な研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①単学級の小規模校で、合同研修会や指導案づくりから授業検討会までを一体となって実施することで、教師の連携とともに資質能力の向上を図ることができた。 ②教師だけでなく、進度を合わせて合同授業を行うことで、授業が活発化し、多様な意見交流ができ、見方・考え方を広げることができた。 ③合同授業により指導が2人体制で行えるために、児童の一人一人の自己決定を促すとともに、自己存在感を感じさせる機会や共感的人間関係を育む働きかけも多くなり、児童の学習への主体的な取り組みを高めることになった。 ④課題としては、「思考を深める授業」の質の向上を図っていくことである。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|--|
| 埼玉 | 飯能市立富士見小学校 | 聴き合い 学び合う 児童の育成 ～一人残らず児童の学ぶ権利を保障する学校を目指して～ | <p>【研究の成果】</p> <p>(1) 児童と教師の姿に表れた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の示す課題に向かって静かに挑戦する姿がどの学級にも見られてようになった。 ・ペアやグループで学び合い、整然としながらも積極的な発言が交わされている。 ・難しい問題に、真摯に挑戦する姿がある。 ・教職員も学び合う関係ができつつある。 <p>(2) 各種アンケート結果に表れた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自己有用感、学習への意欲を高めている。 <p>(3) 学力への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下しながらも少しずつ学力の伸長が見られ、特に下位の児童の学力が伸びている。 <p>【今後に向けて】</p> <p>(1) 「聴く つなぐ 戻す」の精度を高めていく</p> <p>(2) 学び合いを今以上に促進するための課題づくり(ジャンプの課題の蓄積)</p> |
| 埼玉 | 坂戸市立片柳小学校 | 自分の考えを表現し、互いに認め合える児童の育成 ～学級活動における学級会を通して～ | <p>【成果】</p> <p>①話し合い、集会活動の実践を通して、児童同士の関係がより良くなり、特に「聴く力」が向上した。</p> <p>②お互いの考えをよく聴き合い、意見をつなげて発表できる児童が増加した。</p> <p>③学級会から他の教科へ、他の教科から学級会へと良い影響が見られるようになった。</p> <p>④不登校児童数が減り、現在は0である。</p> <p>⑤全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査等、各調査における良い結果が顕著にあらわれるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>①話し合い活動が続けていく上で、今後、ただ聴くのではなく、「考えながら聴く」「身を入れて聴く」という事を意識した指導。</p> <p>②「内容を理解しながら(イメージしながら)聴く」「相手の話と自分の考えの共通点や疑問点を探す」「相手の話に対する感想を自分の言葉で伝える」の3点を、各教員が共通理解しながら学校として児童への指導を心がけていきたい。</p> |
| 埼玉 | 富士見市立南畑小学校 | 豊かな人間関係を築こうとする児童の育成 ～合意形成を図り、よりよい学校生活を作り上げる学級活動(1)の実践を通して～ | 児童アンケート「生活の中で、友達と意見がぶつかったときに話し合いで解決することが出来ていますか」という項目に対し、高学年では、89.5%また、学校全体でも、83.7%の児童が肯定的な回答をした。このような結果から、本研究は、「豊かな人間関係を築く児童の育成」にある程度の成果があったと考えてる。しかし、その一方で、自信のなさから発言できない児童や、感情的になり思いをうまく相手に伝えることができない児童も見受けられた。今後は、実践を継続しつつ、寛容さをもち、自己と他者を同時に尊重しながら、異なる意見や考え方をもとに新たな価値を創造的に生み出す力の育成を推進したい。 |
| 埼玉 | 三芳町立竹間沢小学校 | 他者と関わりを深めながら主体的に問題を解決する児童の育成 ～基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、数学的な考え方を高め表現する算数科指導を通して～ | 授業研究部による学習展開の在り方についての研究、調査・環境部による児童の実態調査ならびに算数の学習環境の整備を通して、「他者と関わりを深めながら主体的に問題を解決する児童の育成」に努めることができた。 特に、研究授業ならびに日常における算数科指導において、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせるために、課題設定を工夫したり、既習事項の想起をさせたりすることが有効なこと。また、数学的な考え方を高め表現するために、絵や図等を用いさせたり、ノート指導を工夫したりすることが有効なことが分かった。 しかし、他者と関わりを深め主体的・対話的な学びとなっているか、数学的な考え方を高め深い学びとなっているかという点については、課題が残った。そこで、来年度はこの課題に重点を置き、研究を進めていく予定である。 |
| 埼玉 | 鳩山町立鳩山小学校 | よりよく生きようとする道徳的判断力、心情、実践意欲と態度の育成 ～心を動かす道徳教育の充実をめざして～ | <p>成果と今後の課題</p> <p>年間学習指導計画、別葉の作成から実施へと道徳の授業を計画的に積み上げ、全教育活動を通して道徳教育の充実へと進めることができた。</p> <p><具体的な成果></p> <p>①主人公に自分を投影しながら話し合っている。</p> <p>②これまでの自己を見つめ、価値について理解している。</p> <p>③友達の考えをしっかりと聞き、物事を多面的・多角的に考えている。</p> <p>④考えを相手に伝えたり、書いたりすることで自己の生き方についての考えを深めている。</p> <p><今後の課題></p> <p>児童が自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めるための発問の工夫、特に中心発問をどこにすることが適切なのかという永遠の命題については、今後も継続的に研究を続ける必要がある。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-----------|---|---|
| 埼玉 | 春日部市立緑小学校 | 主体的に学ぶ児童の育成 ～わかる・できる・楽しい授業を目指して～ | <p>(1) 本年度の成果 本校の昨年度までの実態として、算数を苦手とする児童が多いことが分かっている。さらに、粘り強く問題に取り組んだり、他者との意見を応用統合し考えたりすることが苦手という見解が挙げられている。算数に対する苦手意識も高い児童も少なくない。 昨年度は基礎計算能力に焦点をあてて取り組んできた。本年度は、活動の見直しをもって、自力解決ができる児童を育てるという目標を設定し、職員一丸となって取り組んだ。研修に取り組んだ結果、児童の算数に対する苦手意識が意識調査の結果から多少だが改善が見られた。授業では、3～6年生は学年ごとに習熟度別に分け、児童の実態に合わせた授業を行った。その成果が児童の意識にも表れたのだと考えられる。</p> <p>(2) 今後の課題 日々の研修での話し合いの結果、緑小の児童の学力を向上させる手立てとして以下の3点に特に力をいれていくことに決定した。 ①全員が見直しを持てるようにしっかりと指導を行う。 ②児童の思考の流れがわかるように板書に書き記す。(見える化) ③学年ごとの実態に合わせた振り返りを行い、児童への指導に生かす。 以上の3点を学校全体で取り組み改良改善を行っていく。</p> |
| 埼玉 | 久喜市立久喜小学校 | イノベーション力の育成 ～未来を切り拓く人材育成に向けた「カリキュラム・マネジメント」を通して～ | <p>1 研究の成果 ○イノベーション力を3つに分類し改めて整理したことで、授業の中だけではなく各行事や日課の中で育むことを教職員全体で意識することができた。 ※以下は、イノベーション力に関わる主な変更点。 ・Assistは、英語の和訳を捉えてAssistance に変更し、「知識・技能・教科の見方、考え方」【基礎力】とし、主に、個人の力とした。 ・Approach「協働的態度や感性」は、【調整力】とし、集団での活動で育まれる力とした。 ・Application「思考力」は、【問題解決力】とし、魅力ある問いを解決するために使われる思考力とした。 ○大単元構想づくりを通して、教職員の教科横断的な単元づくりの知識が定着した。また、各教科の単元同士の繋がりだけでなく、「知識・技能の繋がり」、「思考力の繋がり」等、さまざまな繋がりが見えてきた。 ・これまで開発を進めてきた「オーバービューマップ」(単元一覧表)を進化させ、繋がりごとに一目で分かるようになった。 ・各資料の作成を進めることができたので、来年度は刷新することに重きを置いて研修を進めることができるようになった。 ○教科横断的な単元の指導案の形式について、どのように提示すれば分かりやすくなるかを検討し、その単元で育みたい力が一目で分かる説明書(本校ではOVSと呼ぶ)も作成し、単元のねらいを伝える工夫をした。そのことにより、参観者の方に教員側の意図やねらいを明確に伝えることができた。 ○ベネッセコーポレーションの協力を得て、思考力を系統立てる「GPS—Academic」の取り組みに参画させて頂くことになり、個人やクラスの思考方法の特徴が見えやすくなった。</p> <p>2 今後の課題 ○イノベーション力の評価が課題である。「この1年間でイノベーション力が身に付いたのか」と聞かれると、まだ明確に答えられるような指標の柱がない。日頃の授業での児童の変容を記録として残す「エピソード評価」や本時の目標に向かって段階的に示す「ループリック評価」等あらゆる評価にチャレンジした1年間だったが、柱となる評価を決め、研究を進めていく必要がある。できれば数値化する等し、客観性をもたせる。</p> |
| 埼玉 | 幸手市立行幸小学校 | 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成 ～「考え、議論する」道徳科の授業を通して～ | <p>【研究の成果】 ・道徳科の授業と行事、他教科、領域との関連を図り、道徳科での内容項目の補充・深化・統合を意識しながら、教育活動に取り組むことができた。 ・授業UDの視点を取り入れて、全員が参加し、学ぶ喜びを感じる授業作りができた。 ・道徳授業が楽しいと感じる児童が増え、自分の生き方を真剣に考えるようになった。 ・心に響く体験活動を工夫し、道徳実践の場につなげられた。 ・授業公開やパワーアップ週間の取組、情報の共有化で、家庭や地域との連携の深まりと、家庭での道徳教育の啓発も図れた。</p> <p>【今後の課題】 ・行幸小「授業スタンダード(道徳編)」を活用し、教員一人一人の授業力向上を目指す。 ・児童の励みとなる評価について研究を深めたい。 ・ゲストティーチャーの活用、地域の方へのインタビュー等、地域の力をさらに生かしていく。 ・授業公開、情報の共有化で家庭との連携をより深め、家庭での道徳教育の向上を目指す。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|---|--|
| 千葉 | 銚子市立高神小学校 | 豊かに感じ、自ら考え、よりよく行動できる児童の育成 ～問題解決的な学習と体験的な学習を通して～ | <p>○研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自我関与しやすいように、それに適した資料の選択や提示をすることで、自分の考えをもつことにつながった。 ・児童の思考を整理する発問をすることにより、児童の考えが深めることにつながった。 ・発問を精選したり、補助発問を充実させたりすることで児童の考えを深めることにつながった。 <p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が新たな気づきを得たり、自分の考えを広げたりするためにも、「自分と違う考えや立場」を大事にするということについて考えられるようにしていく必要がある。 ・「学習したことを実践に生かすこと」ができるように、学校教育全体を意識した取組を今後も継続していく必要がある。 |
| 千葉 | 印西市立原山小学校 | カリキュラム・マネジメントを通じた情報活用能力の育成 | <p>(1)研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての教師が、教科横断的な情報活用能力育成の視点で、教科等のカリキュラムを見直し、資質・能力ベースの授業デザイン工夫改善をするようになった。 ○教科等の「見方・考え方」を働かせ、多面的・多角的に情報を収集、整理・分析したり、表現したりするような児童の姿が見られるようになった。 <p>(2)今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科の枠組みを超えた「見方・考え方」を整理統合する学びや、本物の社会的な実践としての文脈を踏まえた学びについて、これからも工夫・改善していく必要がある。 ○情報活用能力に関して、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等の要素を量的に評価し、経年変化を考察可能な情報活用能力に関する調査問題等の手立てを確立する必要がある。 |
| 千葉 | 千葉市立鶴沢小学校 | 心はずませる学びの創造 ～夢やめあてをもち、自己の成長を実感できるキャリア教育のあり方～ | <p>学級、学年の実態に応じて4つのキャリア能力を設定し、キャリア教育年間指導計画を作成した。年間指導計画に基づき、短い時間で実践する「ちょこっとキャリア」やキャリアパスポートの活用した特別活動、単元を通してキャリア能力にせまる「しっかりキャリア」の実践を行なった。</p> <p>その結果、子どもたち自身でキャリア能力が身に付く場面を意識できるようになった。また、振り返りの場面で、自らの成長を実感し、自己肯定感が向上した。さらに、今の自分の良さに気づき、仕事をする上で大切な資質について考えるきっかけを得ることができた。</p> <p>キャリアパスポートを中学校で活用する等の小中学校間の連携が今後の課題である。</p> |
| 千葉 | 千葉県立千葉盲学校 | 子供たちの能力と可能性を最大限に伸ばすカリキュラム・マネジメントを目指して ～重複障害(視覚障害・知的障害)学級に在籍する子供たちの力の可視化に向けて～ | <p>1. 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)卒業後の将来を見通すことができる「生活段階表」の作成により、幼児期からの段階的、系統的な学習の必要性を職員間および保護者と共通理解を図ることができた。 (2)子どもの実態を詳細に把握する「実態把握シート」の作成により、子供たち個々の課題点、特化している点等が可視化され、学習面、生活面に留まらず、パーソナリティの育成にも意識した学習展開につなげることができた。 (3)学習指導要領の項目を教科毎にA3用紙一枚になるように作成し、「○×△」で評価を行ったことにより、学習指導要領を更に意識した学習計画、実践につなげられるようになった。 (4)作成した資料を「個別の指導計画」作成の際に活用することで、連続する切れ目のない学びの実現に向けた意識向上につなげることができた。 <p>2. 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)作成した資料を活用しての一貫した指導および評価の共有ができる体制づくり。 |
| 千葉 | 松戸市立小金小学校 | 自分の思いやりや考えを伝え合える子どもの育成 ～対話的な学びを促す指導を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入から学習問題への繋がりを意識し、児童の言葉を拾って生まれた学習問題で学習を進めることで、挙手する児童が増え、自分の考えを話したいという積極的な態度が見られるようになった。 ・課題への動機づけとなるように単元や本時のゴールへの見通しを明確にすることで、児童のうなずきや納得の表情が増え、児童が達成感を味わったと感じた時に、「次もやりたい」という意欲に繋がった。 ・考えを深めるペアトーク、グループトークを意図的に授業に組み込み、ホワイトボードを活用して対話が深まるようにしたことで、相手の意見を聞き、更に深まりのある話し合いができるようになった。 |
| 千葉 | 千葉県立上総高等学校 | 小糸在来で地域活性化 ～幼児と高齢者から始める町おこし～ | <p>本研究の成果として、在来種である小糸在来を地域の方々に広く知ってもらえた。</p> <p>また、この活動を通じて、本校生徒の農業に関する意識の向上を図ることができたとともに、本校生徒のコミュニケーション能力の向上や収穫時の児童・生徒達笑顔や地域の方々の笑顔を見ることができた。</p> <p>さらに、味噌作り体験を経験することにより発酵の力を学び、食すことによって自分で作る喜びを体験することができた。</p> <p>課題としては、もっと地域活性化に繋がるような活動内容にしていきたい。</p> <p>耕作放棄地は田んぼの跡地を利用しているため、栽培に適した土の改良をしたい。</p> <p>畑の改良が確立できたら耕作放棄地の有効利用に繋がっていくと考える。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|--------------|---|--|
| 千葉 | 柏市立酒井根西小学校 | 自分を表現し、一人一人の良さを認め合う学級作り～学級活動におけるインプロ(即興表現活動)を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ・インプロの精神である、「否定せず、全て認めること」が、授業を通して子どもたちに浸透しており、インプロの授業の時は、ほとんど全ての子どもたちが笑顔で、楽しそうに安心して過ごすことができた。普段の授業では特に目立たない子どもたちが、自由に楽しそうに表現できていたことは、特筆に値する。 ・毎回、授業の後のアンケートでは、今まで自分の意見を言ったり、表現したりすることが恥ずかしがっていた子どもたちが、この「インプロ」を通して、徐々に色々な表現に挑戦することが楽しくなり、満足感、自己肯定感を得られるようになってきた。 ・担任もアシスタントと一緒に参加することで、子どもたちに多様な見方をすることができ、そのことが学級経営に生かされてきた。実際、学級では小さなトラブルは日常発生しているが、担任が上手に対処しており、陰湿ないじめ等はほとんど発生していない。 ・2月に、プロのインプロ劇団に来ていただき、実際の公演を初めて観る機会があった。、事後のアンケートでは、ほとんどの子どもたちは、内容から音楽に至るまで、全て即興で行っているということに、驚き、すごい衝撃を受けていた。と同時に、自分もやってみたいと思う子どもたちも多数いた。 ・今後も、「否定せず、全てを認めること」を原則としている「インプロ」を続けていくことが、子どもたちの表現力を向上させ、友だちを認め合う態度を育てていくものと考え、取り組んでいく。 |
| 千葉 | 館山市立西岬小学校 | 自分の考えをわかりやすく表現できる子どもの育成～地域の資源を生かした海洋教育を通して～ | <p>1 海洋教育を通した「表現力の育成」として成果</p> <p>(1) 200文字作文の題材として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生が、「海あそび」をテーマとした作文を書き、海の生き物を捕まえたときの感動を書き表すことができた。 ・3年生が、「テングサ取り」をテーマとして作文を書き、協力してくれた漁協関係者に感謝の気持ちを表すことができた。また、関係者に礼状を送ることができた。 <p>(2) 「生き物ニュース」として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海遊びで捕まえた生き物を校内の水槽で飼育している。2年生が観察して、生き物の様子に変化があったときに「生き物ニュース」を作成し掲示している。 <p>(3) 総合的な学習の時間における個人研究のまとめとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生が「海の生き物研究所」をテーマとした調べ学習を行った。シュノーケリング体験で検証し、わかったことを模造紙にまとめて掲示し発表することができた。 ・5年生が「伝えよう西岬の海」をテーマとした調べ学習を行った。シュノーケリング体験で検証し、生息している魚の生態など分かったことを模造紙にまとめて掲示し発表することができた。 ・6年生が「西岬の海から環境問題について考えよう」をテーマに、大学から講師を招聘して環境学習を行った。実験を通して、生き物が汚水を浄化することや、下水処理の問題などを知り、自分の考えを模造紙にまとめて発表することができた。 <p>2 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動としては、「書く」ことが主であった。「話す」活動はテレビ放送だけであった。今後は全校児童の前で発表する機会を設定したい。 |
| 東京 | 江戸川区立第二葛西小学校 | 自ら考え、すすんで表現する児童の育成～算数科指導を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物や半具体物を活用する、既習事項をもとに解決への見通しをもたせる、自力解決が難しい児童への個別の支援を工夫する、などの方策により、「考える」「表現する」という児童の姿が量的にも質的にも高まった。 ・「自ら」「すすんで」ということについては、どうしても教師の思いや願いが強く出過ぎてしまうところがあった。さらに、子どもの言葉を活かした授業の展開、子どもの視点に立った指導などを進めていく必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現・充実が求められる中、この研究の成果を活かしていきたい。 |
| 東京 | 日野市立三沢中学校 | 地域とつながり、地域に育まれる自己有用感～ちよこっとボランティア大作戦～ | <p>地域でのボランティア活動について、昨年度の生徒アンケート「地域とのつながりをもつために、ボランティア活動に積極的に参加していますか」で「そう思う」と回答した生徒は3割程度であった。本取組後のアンケートでは、「活動が人の役にたった」の項目では96%、「人の役にたつてうれしかった」の項目では約90%であった。また、多くの生徒が振り返りシートで「またやりたい」となっていた。「次はいつですか」と質問してくる生徒もいた。その結果、今年度のアンケートでは約7割の生徒が肯定的に回答した。これらのことを踏まえると、本活動のねらいである「人の役に立つ喜びを感じる」体験を通して、生徒のボランティア活動に対する意識・行動が高まったと捉えている。課題として、アンケートの結果、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた約3割の生徒の変容を促す対応策を検討していく必要がある。</p> |
| 東京 | 国立市立国立第三中学校 | 深く考える生徒の育成～「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を通して～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が深く考えるための「個」→「集団」→「個」の流れを確立できた。 ○生徒が自分の考えをもち、対話的な活動が活性化した。 ○SDGsの活用により、グローバルな視点から生徒の考えが多様化し、深い学びのきっかけとなった。 ○立川青年会議所との連携により、現職の環境大臣を始め、幅広い分野の有識者の話を聞くことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間配分、人数設定の難しさ ○課題の吟味、見守り支援の必要性 ○課題設定の重要性 |

令和元年度 教育研究助成応募【学校研究】

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|---|
| 東京 | 多摩市立愛和小学校 | 豊かな自然環境を生かしたESDの推進 ～「主体的」「協働性」「問題解決能力」の育成を目指して～ | ○全学年が、生活科、総合的な学習の時間において自然環境から学ぶ学習を行い、児童全員が自然の恵みと命のつながりを実感し、また自然環境を守ろうとする意識を高めた。 ○高学年児童は、愛和小学校の学校林、学校菜園での学びを地域の自然環境に視野を広げることができた。多摩市役所公園緑地課と連携し、公園における環境整備やその自然環境に着目し、自然豊かで人々が安心できる未来の公園をイメージし、多摩市に提案することができた。 ○学校林や学校菜園での体験活動を含め、児童が探求的に学習した成果を保護者や地域に発信するため、「愛和フェスティバル」を開催した。児童が学びの成果を堂々と発信し、保護者や地域からは「児童の自発的な姿に感動した」「子供たちのアイデアはすごい」「地域がもっと明るくなると感じた」など称賛の声を得た。 |
| 東京 | 東京都立羽村高等学校 | 研究授業と生徒の変容観察を中心とした授業検討会に関する実践 ～アクティブラーニング形式の導入を通して～ | (1) 成果について ア 調査・研究による教員の意識変革 (ア)月1回の学年ごとの「校内授業研修」を実施することで、職員室でのインフォーマルな会話から、研修会での「議論」ができるまでに教員の生徒の変容をみる力が培われてきた。 (イ)「校内授業研修」により、教員一人ひとりの「ALに対する共通理解」が深まり、授業改善の取り組みが活性化している。 イ 教科ごとの取組実績 (ア)ペアワークによる音読(国語) (イ)グループ活動&個人活動による学び合い(数学) (ウ)ペアワークによるインフォメーションギャップを利用した活動(英語) (エ)グループごとに実験結果を共有し、分析・考察・発表(理科) (オ)協同学習の手法を取り入れた問題解決型授業(家庭科) (2)課題について (ア)AL型授業の導入率が向上したことで、生徒の課題に対する慣れができた。 (イ)依然として図書室の活用が少ない。インターネットを利用した情報収集に偏るのではなく、検索作業・文献を読み解く活動を取り入れていく必要がある。 |
| 神奈川 | 厚木市立北小学校 | 共生社会の素地づくりを目指した教育活動の実践 ～国際教室を中心とした取組を通して～ | 【成果】 ・外国につながるある子どもたちがいることが、学校の中に当たり前のこととして認められている雰囲気がある。 ・外国から日本語が全く話せない状態で児童が転入してきても、受け皿があるので適応できずに不登校になるということはない。 ・国際理解旬間や国際教室の取組によって、外国とつながりのある児童が母国や母語に対して誇りを持つことにつながっている。 ・教育相談コーディネーターを中心にケース会議等が計画的に行われ、支援が必要な児童 【課題】 ・学習ボランティアは、すでに地域の方の協力により活動できているが、コミュニティ・スクールである強みがまだ十分には機能しているとは言い難い。 ・職員の入れ替わりや経験年数の違い等により、職員間の意識に差が生じている。 |
| 神奈川 | 葉山町立長柄小学校 | POPで「一冊を手取る子」を育む ～学校と地域の連携をとおして～ | 今年度、本校では図書委員会と6学年国語科授業を中心に、POPをとおした読書推進活動に取り組んだ。この取組は、葉山町立葉山中学校および葉山町立図書館、また地域に一店舗ある書店との連携により実現した。小中連携という視点を明確にもちながら、同時に地域に開かれた学校の在り方を見通した試みである。成果として、子ども達が読書のきっかけを得たり本に親しんだりする態度が育まれたほか、地域の方々の温かい眼差しが注がれる様子が伺えた。また一部ではあるが子ども達の学びを伝えることにもなった。小さな町だからこそその強みを生かし、今後はさらに小中9年間の系統的な取組となるよう工夫しながら、葉山町の子どもの読書推進活動に寄与していきたい。 |
| 神奈川 | 横須賀市立夏島小学校 | わかった できた なるほど ～児童が考えを深め、充実感を持つことのできる授業をめざして～ | 本校は令和元年度より「相手を意識して、聴く、伝える、考える ～みんなで深める道徳～」を研究テーマに掲げ、学校研究に取り組んだ。 研究手法としては、本時の学習指導案を同学年の学級が同時に授業公開し、その後研究協議を行うことで、全学級が研究授業に取り組む体制を構築した。そのような過程を経ることによって、明確な課題意識をもとに教員一人一人が積極的に研究に参加・参画し、道徳の授業におけるより質の高い児童の学びを創り出そうという意欲の高まりにつながることができた。このことこそ、本校としての最大の研究成果であると考えている。 |
| 神奈川 | 川崎市立西御幸小学校 | 子どもが進んで「自分創り」を楽しむ学校をめざして ～キャリア教育を主軸に据えた教育実践～ | 「子どもが進んで『自分創り』を楽しむ学校をめざして」というスローガンを掲げ、①異学年交流(びかびか班活動を通して自己肯定感と役割意識を高める活動)②授業改善(相手の思いを受け止め、自分の思いを言葉で伝える活動)③陶芸活動(自分の思いを形にする活動)に積極的に取り組んできた。「かわさき＊プログラム効果測定尺度」を用いて効果検証をした結果、人間関係得点(信頼他者得点・信頼自己得点)が高まったことを裏付ける結果を得た。さらに「一人一人のキャリア発達」という視点からカリキュラムマネジメントを進め、教育活動の実施方法を工夫するとともに、家庭・地域との連携を一層推進していくことが今後の課題である。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|---|---|
| 神奈川 | 相模原市立緑台小学校 | 教職員の働き方改革の推進 ～職員室環境改善の実践を通して～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室環境の改善に取り組んで3年目となる。異動をして来た職員にとっても①何が ②どこに あり、③作業スペース が直感的に理解できる職場となった。 ・上記の効果から、職員の教材作成に要する時間の削減が実感できるようになった。 ・作業スペースに道具や消耗品等を集約することで効率化がはかられ、消耗品費の削減につながった。 ・職員が本校職場環境に慣れてくると、その中に流れるワークフローの考え方について理解が進み、自発的に仕事の効率化を図っている場面がみられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この取組を継続させることが大切で、そのための仕組みは設定されているが、新たな課題に対する改善を不断に行う職場風土の醸成を行う必要がある。 |
| 神奈川 | 相模原市立中央中学校 | 地域とともに取り組む一人ひとりの子どもたちに未来を提供する学校づくり ～コミュニティ・スクールモデル校としての実践を通して～ | <p>本校の学区には子ども食堂や無料学習塾そしてフリースクール等、児童生徒への個別の支援に携わる施設・団体が数多く存在し、従前からそれぞれの立場できめ細やかな支援の手を差し伸べていた。しかし、その取組はそれぞれの団体ごとにピンポイントで行われ横の連携をとることは困難であった。昨年度、あいあーネットを組織し学校がプラットフォームとなることで、それぞれの団体が支援している児童生徒への関わりに、横の連携が現れている。実際にスクールソーシャルワーカーが関わっていた子どもをNPO団体の活動に繋げ、具体的な支援が可能となった事例もみられた。また、地域の支援団体の多くは、僅かな資金と人材の中でも子どもに対する愛情を支えに、なんとかやりくりを続けている方々ばかりであり、あいあーネットによって組織的な取組に繋がることへの安心感が得られている。</p> |
| 神奈川 | 茅ヶ崎市立北陽中学校 | 学びを実感できる授業づくり ～考え・伝え・創り出す～ | <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒インタビュー」「生徒振り返り用紙」「研究協議」から、教員が授業に仕組んだ「しかけ」によって、生徒が考えなくなったり、伝えなくなったり、仲間とともに学びを創り出したりしていったことが見取れた。そして、そのことによって、生徒が「学びを実感できた」ことも感じ取ることができた。 ・「授業キャッチフレーズ」を設定するために、教員一人一人が自らの授業でめざすもの、大切にしたいものを考えることで、各教科の特質や自らの指導観を問い直すとともに、それらを生徒と共有することで、教員も生徒も各教科の特質に応じた「深い学び」をめざすことにつながった。 ・3年間の研究が授業改善につながり、「生徒授業アンケート」の数値が上がった。 |
| 神奈川 | 綾瀬市立綾瀬中学校 | 生徒が「いきいきと取り組む学習」を目指して ～保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の授業の在り方を探る～ | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科ともに、知識と知識を関連づけてより深く理解する力や課題を見出して解決策を考える力等を身につけさせる授業の在り方を模索したことで、教師が一方向的に知識・技能を教える講義スタイルから脱却し、生徒が能動的に学習に参加する話し合いや、説明する授業スタイルにシフトすることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科での取り組みでは、「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践にむけて、PCに入力したデータやVTRの映像を手掛かりに、授業を効果的かつ科学的に行うため、GIGAスクール構想も踏まえ、タブレット等のICTの活用も今後の課題としてとらえたい。 |
| 新潟 | 新潟市立小針小学校 | 参画型校内研修による授業力の向上 ～「心理的安全性」を担保し、協働性・同僚性を高める～ | <p>○ 研究の主な成果</p> <p>(1) 年度当初の職員研修をワークショップ型にしたことは、「心理的安全性」の担保に効果があった。また、ワークショップのテーマに「新学習指導要領と教育ビジョン」「こんな子どもが素敵」「主体的・対話的学びって、どんな学び?」「学校行事言いたい放題」「働き方改革でみんなが幸せになれるアイデアはどんなものやことがあるだろう?」を設定したことは、教職員の主体性を引き出すとともに、教育活動の目的を見直すことに有効だった。</p> <p>(2) 同一指導案で全員が同じ授業を行うことは、当事者意識を持って指導案検討に臨み、自学級の実態を想定して「自分が授業をするとしたら」「自分だったら」という切り口で活発に意見交換がなされただけでなく、各学級の実態を理解し合う場となった。</p> <p>(3) 同一指導案で授業をしても、決して同じ授業にはならず。授業での対応力の大切さを実感することができた。また、対応力を磨くために、授業技量の高い同僚から教を請う姿が見られるようになった</p> |
| 新潟 | 佐渡市立加茂小学校 | 地域と子ども・保護者・学校でつくるコミュニティ・スクール ～地域と学校をつなぐ学校運営協議会と地域学校協働活動の取組～ | <p>1 子どもたちの学びの充実 大勢の地域の方の支援により、様々な充実した体験活動を企画・運営することができた。その結果、子どもたちは楽しく前向きな気持ちで学習することができ、充実した学びの経験を重ねることができた。</p> <p>2 地域ネットワークの広がり 地域の人々を介して、様々な人が学校に関わるようになり、子どもたちと地域の人々とのつながりができた。そのことにより、子どもたちの地域への関心・愛着が深まってきた。</p> <p>3 地域の方々からの働き掛け 地域の人々が子どもたちと関わることで、楽しい活動が次から次へと生まれ、地域の方々も積極的に継続的に学校と関わりをもつようになってくれた。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|---|---|
| 新潟 | 柏崎市立南中学校 | 対話を通して多様な価値に気づき自己を見つめる ～かかわりを通して思考を深め、解決法を追求する 生徒の育成を通して～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通の「話し合いルール」実践によりほぼすべての生徒が話し合いを行うことができた。また、学級だけでなく部活動等あらゆる話し合いの場面で実践しているため、生徒は安心して学校生活を送ることができた。 ・話し合い活動を通して、生徒同士の交流が増し、一人ひとりの関係が密になった。その結果、互いの「よさ」に気づき、考えや思い、相互理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は他と「かかわる」ことで意見や思いを交流し、共有することで様々な価値に触れることができ、多くの刺激を受けた。今後は、高まった意識や磨かれた感性を土台として、追及する姿を獲得するための職員の適切な支援、次なる手立てが課題となる。 |
| 新潟 | 佐渡市立南佐渡中学校 | 郷土への愛着や誇りをもち自らの未来を拓こうとする 生徒の育成 ～地域貢献活動の充実を通して～ | <p>(1) 成果</p> <p>学校評価のためのアンケートの結果をみると、徐々にではあるが、祭りや地域のボランティア活動に意欲的に取り組んだとする生徒が増えてきている。また、地域・保護者からはこれらの教育活動に対する称賛の声が数多く寄せられるようになった。学校が単独で行う教育活動から脱却し、保護者や地域との協働による取組として、また学校の伝統的な活動として、生徒や地域から認知されつつあることが、その背景にあるものと捉えている。</p> <p>一方、「地域コミュニティの中核としての学校」という観点からは、統合前の旧市町村の枠を越え、広く「南佐渡の学校」として認知されるようになった点が挙げられる。地域における各種会合等では、学校の取組に対する称賛や励ましの声が盛んに聞かれ、批判的な意見はまったくなくなった。このことは郷土愛の育成のみならず、学校が行う教育活動全般に好影響をもたらすことになる。</p> <p>(2) 課題</p> <p>郷土愛が高まる中、少しずつ現実を客観的に捉えられるようになる中学生は、急速に過疎化・少子化が進むという現実を複雑な心境で捉えている。単に地域との関わりを増やすだけでなく、キャリア教育と連動させた横断的な取組が必要になる。下線は、佐渡市がキャリア教育を通して育成を目指す人材像であるが、いずれもその根底には「佐渡が好きだ」という心情の育成が必要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 佐渡で成長しながら活躍する人 ○ 佐渡に帰り心身ともに大きくなって活躍する人 ○ 佐渡を外から支え応援する人 <p>今後も上記の教育活動を進めていくが、中学校卒業段階で完結しては何も得ることはできない。将来、どのような形で佐渡と関わり続けられよいか。発達段階に応じながら自身の未来を考え続ける指導が必要である。そのためには、市や県といった行政の枠組みを越え、小・中・高の一貫した教育システムの構築が必要だと考える。</p> |
| 長野 | 松本市立梓川中学校 | 健康的な食生活にするために工夫し創造しようとする 資質・能力を育む地域食材を活用した「食生活」の学習 | <p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の戦争の歴史を学ぶことで、「戦争」を遠い存在から身近なものとして捉えることができた。 ・できる限り手を加えずに生徒の主體的な活動を促すきっかけを作ることが、教師の支援として最も重要であり、今回の研究においては、聞き取り調査が主体的活動の鍵となった。漠然とした知識に対して、生の声を聴いたことでその事実が鮮明になり、その歴史を後世に伝えていくことの重要性に気付くことができた。 ・聞き取り調査で判明した事実が、満蒙開拓平和記念館にある資料で裏付けが取れた。さらに発表を通して多くの人に認められたことにより、自分たちが学習したことの意味に気が付けた。生徒たちにとって、学習して身につけた知識を活用することの尊さが理解できたように思われる。 |
| 長野 | 青木村立青木中学校 | 「伝統芸能の継承」における地域と中学校とのつながりから得られること ～中学校がコーディネーターを務めることを通して～ | <p>「伝統芸能発表6地区の取組みにかかわる意見交換会」の合意に基づき行った文化祭発表も成功した。私たちは、特に人数の少ない地区と共に伝承に向けての課題に向かっていきたいと思いを新たにしました。また、例えば、神楽で使用される太鼓は、紐締長胴太鼓(信州型)と呼ばれる独特のものであることを太鼓の専門家より教えていただいたが、伝承に取り組む者同士が連携することでお互いに得られることも見いだせそうである。</p> <p>本テーマによる取組みは、伝承の歴史や伝承が危ぶまれるに至った経過、およびこれからの郷土のあり方を考えるよい素材であることとともに、参加する生徒の自尊感情を高めていくものであると結論づけることができる。</p> |
| 岐阜 | 海津市立東江小学校 | 算数を好んで学ぶ児童の育成 ～「校長先生からの挑戦状」を中心とした取組～ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童が算数を好きになるために、次のような工夫をした問題を提示することが有効である。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題を考えることは楽しいと感じさせるような問題 ・問題が求めていることをシンプルにした問題 ・問題が求めていることを別の媒体に置き換える問題 ・週末の課題として10問をまとめて提示し、わからない問題は「わかりません」と書いてすませ、他の問題に移れるようにする工夫 2. 教師の指導力を高めるために、前後の学年や単元の関連性を図に表した構造図を作成して説明に使うことが有効である。 3. 今後、学力の向上にもつながる実践を継続する。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|--|
| 岐阜 | 大垣市立青墓小学校 | ふるさとに学び、高い志を持つ子どもの育成 ～地域の資源や人材を活用することで～ | <p>○昨年の2学期末、児童対象に自己評価を行った結果、「ふるさと学習は楽しい」と答える児童が増える(93%)とともに、夢や希望を持つ子(87%)、授業がよく分かる(92%)、学校が楽しい(88%)、自分にはよいところがある(78%)という児童も増えてきた。</p> <p>○このことから、ふるさと学習に児童が主体的に取り組むことで、高い志をもってこれからの時代を生き抜いていこうとする児童が増えてきていると考える。</p> <p>○保護者は、学校がふるさと学習の充実に努めていることを高く評価している。(2学期末評価98%)</p> <p>▲子どもの学びや発表でのよさ、保護者や地域からの声を子どもに伝え、「自分にはよいところがある」と答える児童をさらに増やしていきたい。</p> |
| 岐阜 | 土岐市立泉中学校 | 練り合い高め合う生徒の育成 ～主体的で深い思考のある授業の創造～ | <p>ここ3年間の成果指標として、「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」というアンケートの「そう思う」と回答する割合40%を目指すことを1つの指標に取り組んできた。4月のクラス替えや、前後期の班替えの際に数値が下がることは良くあるので、正確な結果と言えないが、今年度の第2回授業創造アンケートでは、過去最高の割合(37.4%)を出すことができた。この3年間の取り組みが「深い学び」＝「深い思考」の実現に向けて確実に成果をあげていることが伺える。今後の研究の中でも、「主体的な学びを実現する導入の工夫」や「本時の深い思考を明確にし、それを実現する働きかけの工夫」を考えながら取り組んでいく方針を確認した。</p> |
| 静岡 | 浜松市立東部中学校 | 自己管理能力を持った生徒の育成 ～ピアサポート活動を通じた生徒の自己有用感の醸成及び自己決定力の育成～ | <p>小学生とのピア・サポートを通じた交流や学校説明会 中学生にとってリーダーとしての振る舞いを学ぶよい機会になっている。それによって生徒にリーダーとしての自覚が芽生え、集団に的確に指示を出す方法や、全体をリードして方向性を示すために必要な資質について考えることにつながっている。</p> <p>何よりもこれが中学生にとっては大きな励みとなっており、自己有用感を得ることにつながっていることが大きな成果と言える。</p> <p>「外部講師から学ぶピア・サポート」 専門的な指導いただきながら実践をすることで、活動の意義やポイントをよりの確に押さえることができるため、生徒たちのさらなるスキルアップにつながっている。</p> <p>生徒アンケートの結果 「相手の気持ちを考え、思いやりの心をもって人と接することができる」という項目に対して、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した生徒が全体の約9割を超える結果となった。また、「私のクラスは楽しく教室は安心できる場所である」という項目でも、8割を超える生徒が「教室は安心できる場所である」と回答している。</p> <p>互いを尊重し自己を管理しようとする気持ちが育っていることがうかがえる。</p> <p>今後の課題と対策 学校にいるすべての生徒が学んだことを日常の学校生活に活かすことができているわけではないというところが課題として挙げられる。よりよい学校へと発展させていくためには、ピア・サポートを日常生活の中で活用できる生徒を増やし、学校全体に根付かせていきたい。そのために、学校生活のあらゆる場面で生徒に対してピア・サポートの活用を意識させるような働きかけを教師が継続的に行っていく方法を考えていきたい。</p> |
| 静岡 | 静岡市立中藁科小学校 | 「自分の良さを磨き、つながりを大切にする」ために ～学力・学習状況調査の結果を学校経営の改善に生かす～ | <p>「自分の良さを磨き、つながりを大切にする」をテーマに①総合的な学習を柱とした授業改善②国語タイムの設定による言語力の向上③家庭学習の工夫④社会や地域への関心⑤学習環境の充実⑥ブチ研修の6点の具体策に取り組んだ。一番の成果としては、①の総合的な学習を地域貢献型探求プロジェクトとし、思考ツールを活用しながら自分たちが本当に探求したい課題を見つけ、主体的に地域の「ひと・もの・こと」と関わりながら活動する子どもたちの姿を見ることができた。また、地域社会との連携においては、地域防災の日を設定し、ともに活動することができた。これらの活動を通し、「地域を知り、地域を愛し、地域に貢献する子」の育成を図ることができた。</p> |
| 愛知 | 岡崎市立常磐東小学校 | 地域から学ぼう！ ～学校・地域が協力して「ふるさとかるた」をつくらう | <ol style="list-style-type: none"> 1 児童が地域の方のお話を伺い、学区の「常東ふるさとかるた」を作成した。 2 昨年度と本年度の5年生が中心となり、全校児童を巻き込んで完成した。 3 絵札・読み札・解説のこぼし・解説のカラー写真の構成で3月末に印刷完了。 4 児童が考えたキャラクターのトキヒガまるが、かるたの解説役として活躍。 5 かるたで遊びながら地域の「人」「自然」「歴史」を学習できる内容。 6 子供たちはかるた作りを通して、地域を調べ多くの人と関わることができた。 7 かるたづくりを通して、子供たちの思考力や表現力を培うことができた。 8 かるた作りで達成感を体得し、自尊感情や自己存在感を培うことができた。 9 学校創立 120年記念式典の記念品として、令和2年11月15日に学区全戸の350戸、学区内の各施設にかるたを贈呈する予定である。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|--|---|
| 愛知 | 瀬戸市立掛川小学校 | 地域とともに取り組む「心豊かな たくましい子」の育成 ～小規模特認校スタートに向けた特色ある温かい学校づくり～ | <p>地域とともに取り組む「心豊かな たくましい子」の育成 ～小規模特認校スタートに向けた特色ある温かい学校づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 恵まれた自然を活用した自然学習は、子どもたちに生きる力を呼び起こし、探究心や創意工夫する力を育てている。 ○ 地域と保護者の力を借りながら行う米づくり学習は、子どもたちと地域の方のつながりを生み、地域愛と感謝の心を育てている。 ○ 全校一斉に取り組む和太鼓の学習は、上級生が下級生を教える中で、思いやりの気持ちやあこがれの気持ちをお互いに持ち、育ち合う機会となっている。 ○ なかよし集会やフレンドタイムを通して、コミュニケーション能力を高めることができた。小規模特認校に向けて、普段の生活でも相手を思いやった言動が取れるように心を育てていきたい。 ○ 特色ある教育活動やPR活動を、地域や保護者の方々と学校職員が子どものために準備、協働することで、一体感が生まれ、よりよい学校運営につながっている。 |
| 愛知 | 長久手市立西小学校 | 自ら考え、学び合う児童の育成 ～伝え合う活動を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ○学習の基礎・基本の定着 ・それぞれの教職員が工夫して作成したワークシートやアイデアを共有することができた。 ・授業で自分の意見を発表する方法や他者の意見を聞く方法が定着しつつあり、相互氏名など意見交流に有効な習慣づけを図ることができた。 ・授業における「めあて」「まとめ」を大切に伝えることで、見通しを持った活動ができ、児童の学習に有効に作用した。 ○「学び合い」の工夫 ・授業者が「伝え合い」を意識した授業展開を考えるようになった。 ・校内で統一した班活動の形態を確立することができ、小集団と全体での活動を有効に使い分けられることができるようになった。 ○授業力の向上 ・研修に対する抵抗感が薄れ、積極的に授業研修を行う気風が育った。 ・ICT機材が有効に使用されるようになった。 |
| 愛知 | 北名古屋市立師勝小学校 | 生涯にわたって健康で安全な生活のできる子の育成 ～健康教育に関する部会の取組を通して～ | <p>児童の実態を基に、さまざまな健康教育に関する取組を行ったことで、児童の意識を高め、実践化に向けた働きかけをすることができた。</p> <p>グループでの話し合いを取り入れた授業や授業に関連した掲示物を作成したことで、授業で学んだことを継続的に意識させることにつながった。</p> <p>体育科の授業にサーキットトレーニングを意図的に設定することで、「運動が好きか」の問いに、80%近い児童が肯定的な回答をした。</p> <p>廊下ですれ違った際、挨拶や会釈をする児童が増え、「友達にやさしくしていますか」、「学校で友達にあいさつしていますか」の問いに、肯定的な回答を示す児童の割合が高くなった。</p> <p>課題は、生活習慣チェックカードの在り方について検討を重ねることや、今後も、児童の実態から健康課題を明確にすること。家庭や地域と連携しながら、保護者と共に学ぶ場を提供し、より効果的な取組を行うこと。</p> |
| 愛知 | 江南市立門弟山小学校 | 主体的・協働的に深く学び合う児童の育成 ～全員が参加できる授業の創造を通して～ | <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領のキーワードの一つである各教科の「見方・考え方」について、共通理解をし、「深く学び合う」ためのアプローチの一つとして、研究を深めることができた。 ・カリキュラム・マネジメントの考え方を学び、一単位時間の授業デザインをするのではなく、単元デザインをした上で、授業設計をしていくことで、より柔軟な指導計画を作成して、授業に臨むことができるようになった。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から新学習指導要領の完全実施が始まるので、本格的にカリキュラム・マネジメントの研究をしていくのは、来年度からになる。本校の児童の実態を踏まえながら、研究をさらに深め、「グランドデザイン」「単元配列表」を作成していきたい。 |
| 愛知 | 犬山市立犬山西小学校 | 仲間とつながり、みがき合う児童の育成 ～自ら考え、互いに伝え合う活動を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ①主体的に学びを進める 児童がやりたいと思う活動、自らの意思で取り組む活動、仲間と交流する活動を設定することが、主体的に学びを進める児童の育成につながった。 ②集団の中で自分の考えを高める 「仲間とつながり、みがき合う」児童を育成するための手立てが整えられたことで、集団の中で自分の考えを高めることにつながった。 ③自分の学びを深める 「仲間とのつながり、みがき合う」場面を生む工夫をした発問を投げかけることで、児童は自分の学びを仲間との関わりによって一段と深めることができた。 <p>・今後の課題等 今後も引き続き、仲間との関わりによって自分の考えを練り上げる授業を学校全体で行い、どのような場面においても、主体的に関わり、学び続ける児童を育む実践をすすめていきたい。</p> |
| 愛知 | 愛西市立草平小学校 | 運動と適切に関わりながら、生涯にわたって心身の健康の保持増進を意識できる児童の育成 ～体幹を意識した取組を通して～ | <p>体幹を意識した取組により、授業中の姿勢がよくなったり、立位の体幹トレーニングで軸のブレが少なくなったりする姿から、少しずつ効果が出ていることを感じている。今後は、体幹を鍛えることの重要性やメリットなどを知識としても学ぶ場を設けることや、スポーツや健康への意識を向上させる掲示物や環境の充実、他の単元での指導法の工夫などを通して、体幹トレーニングにとどまらず、「体幹トレーニング」へと広げ、生涯にわたって心身の健康の保持増進を意識できる児童の育成に向けて実践を継続したい。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|----------------|---|---|
| 愛知 | 飛島村立小中一貫教育校飛島学 | 自己の力を信じ主体的に未来を切り拓く飛鳥っ子の育成 ～授業や活動で「積み上げ」「かかわり」の場を位置づける小中一貫教育を通して～ | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自らの意見をしっかりと考えることができるよう授業展開を工夫し、生徒自身が自分の考えに自信を持ち、発信意欲を高めることができた。また、活躍する場が増えたことで、生徒の自己肯定感が育まれた。 ・他者とかかわる場の設定により、自らの思いや考えを自分の言葉で伝えようとする態度が養われ、生徒の主体性を育むことができた。特に、地域の方々との活動を通して、地域の皆さんのやさしさに触れる中で、自分から行動する大切さに気づき実践するなど、自分の考え方や行動が変化した生徒が増えた。 ・小中の教師が協働し、義務教育9年間の系統的な指導を共に考えることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の思考を活かし意見を拾い生徒の考えをより深めさせるための授業力向上。 ・教科の系統を意識するために、教科部会ごとに小中で授業を参観し合う授業研究の継続。 ・効果的かつ日常的に行うことができる発達段階に応じた振り返りのための、ICTやシートの活用の工夫。 ・総合的な学習の時間の年間指導計画を毎年見直し、各学年が発達段階に応じて「探求」する活動に重点を置く9年間を意識した活動の積み上げを継続。 |
| 愛知 | 愛知県立名古屋特別支援学校 | 肢体不自由特別支援学校における主体的な学び ～主体的な学びを促す授業実践から得られた成果をカリキュラムマネジメントに活かす～ | <p>1. 成果</p> <p>肢体不自由特別支援学校における主体的な学びについて、授業実践を通して整理し、その視点をまとめることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ア スタディ編成等を工夫し、主体的な学びに結びつける。 イ 認知、発達を活用して主体性的な学びを促す。 ウ 系統的な学びから一貫性のある主体的な学びを促す。 <p>2. 今後の課題</p> <p>整理した視点を共有して、小学部から高等部までの指導の一貫性を検討する。今回の研究で整理できた視点に合わせ、これまでに作成してきた「キャリア教育目標」や「めざす児童生徒像」を踏まえて、具体的なカリキュラムマネジメントの取組として考えていきたい。</p> |
| 愛知 | 愛知県立大府特別支援学校 | 病弱虚弱児童の学習を保障する取組について ～ICT機器の活用を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ・使用方法 生活単元学習 ・公共交通機関(バス)を使用して校外学習にかけた。目的地では、買い物学習や遊具での遊びを行った。いくつかのポイントで全地球カメラを使い、静止画や動画を撮影する。後日の事後学習で静止画や動画を見ながら振り返りをする。 ・児童の様子 ・通常の静止画や動画では、撮影したものをみるだけであったが、全地球カメラを使用して撮影したものはタブレット端末で360度動かしながら見ることができる。そのため、タブレット端末に触れる機会の少ない重複障害学級の児童でも主体的に操作して見たいところに注目したり、他の友達に提示したりすることができた。発語が少ない児童は楽しかったことや頑張ったことなどを、自らタブレット端末を操作することで伝え、話すツールとして使用し発表することができた。 |
| 愛知 | 岡崎市立福岡中学校 | 不登校児童生徒の自立を目指した支援の在り方と学校復帰に向けた取組の有効的手段の探求 | <p>○校内外の適応指導教室における支援の充実による学校復帰率の向上</p> <p>校内外の適応指導教室や医療機関と連携し、個に応じた対応を取ることを進めた結果、本年度末の不登校生徒の割合は2.1%であった。さらに、このうち欠席が週1日程度まで回復した生徒が3名であった。ただ、適応指導教室の充実だけでは自己肯定感が高まらないことも確かである。生徒の回復の段階に応じて、通常学級との連携が次のキーワードとなった。また、生徒それぞれに壁となってくる事象は様々である。よく、「不登校生徒には、自分の唇がある」と言われる。その生徒が動き出すタイミングはそれぞれだが、必ずその生徒なりの復帰の機会が存在することも様々な事例を分析して分かった。</p> <p>○今後に向けて「校内フリースクールの設置」</p> <p>本研究成果が岡崎市内でも認められ、来年度市内で開設される「校内フリースクール」のパイロット校となった。今後は、不登校生徒の学校復帰に向けて、支援員やICT機器が配置、独自の教育課程が編成される。今後も、研究を継続したい。</p> |
| 大阪 | 岸和田市立城内小学校 | 豊かに自分を表現できる子どもの育成を目指して ～自ら考え、学び合う道徳科～ | <p>【主要な研究成果】</p> <p>授業における時間配分をしっかりと意識し、導入の部分を短くする工夫を行い、資料の中にある行動と言葉から「心」の変化を読みとらせ、動作化や役割演技等を行いながら、新たな気づきにもっていき、展開後段での自己を振り返りの時間をとることができるよう授業改善を行うことができた。</p> <p>また、「道徳の授業は、自分にとって大切だと思う」と回答した児童の割合が高くなり、これは道徳の授業改善が児童にも目に見える形で浸透してきている成果と考えられる。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>様々な教育活動を通して道徳教育を学校全体で進めながら、道徳の授業のあり方(教材の読み取りの時間、主発問の工夫、動作化や役割演技、自己の振り返りなど)について、まだまだ改善すべき余地がある。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|--|--|
| 大阪 | 大阪市立平野小学校 | わかる楽しさ・できる喜びを体感できる算数科授業のあり方 | <p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、ペア学習やグループ学習の時間を設けることで、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いて自分の考えと比べ、より良い考え見つけたりするなど、対話を通して、学びの深まりが見られた。 ・単元の学習内容に応じて、児童に身につけさせたい思考力はどんなことか考え、目的に合った児童が主体的に取り組めるような数学的活動を取り入れることによって、思考力を深めることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5段階の学習指導段階に基づいた授業の進め方は定着してきたが、単元の学習の進み具合や、学習の内容によって、5段階の時間配分に工夫が必要なが分かってきた。 ・ペア学習やグループ学習で話をする際には、何について話し合うのか話し合いの観点を明確にし、互いの考えを高め合えるように指導していく必要がある。 |
| 大阪 | 大阪市立野田小学校 | 共に学び合うことができる学級集団作りをめざして～Q-Uの分析を指導に活かして～ | <p>○ K-13法などを活用し、Q-Uの分析を学級集団づくりに活かすことは、特に、学級集団の現状分析や手立てのノウハウを持たない若手教員にとって、対応の手がかりがつかみやすく、加えて客観的なデータがあるため極めて有効であった。また、若手教員を指導・支援する側も、これまでの経験を想起し、ポイントを絞ったアドバイスを行うことができるので、若手教員だけでなく自身の学級経営にとっても良い機会となった。</p> <p>○ 「学級満足度尺度」結果から、子ども一人一人の状況だけでなく、分布から学級全体の状況を把握することができた。学級の中で親和的な交流が少ない場合は縦軸方向に伸びた分布に、集団生活を行うためのルールやマナーが定着していない場合は横軸方向に伸びた分布になるので、学級全体に対して適切な働きかけを行うための指針を得ることができるとともに、個々の集団の中での位置を知ることができるので、いじめや不登校などの早期対応も可能となった。</p> |
| 大阪 | 堺市立五箇荘中学校 | 学びあい 高めあう授業 みとめあう集団づくり～主体的、対話的な深い学びのある授業をめざして～ | <ul style="list-style-type: none"> ・研究に向けて、教科別研修会、学力向上推進委員会等の委員会が定例化し活発な議論が交わされるようになった。 ・各教科において取り組むべき主題が統一され学校としての取り組みが行われた。 ・教職員の授業改善の機運が高まった。 ・生徒のアンケートでは、普段の授業で自分の考えをしっかりと友達と話し合っている。という項目のポイントが上昇している。などの成果が見えてきた。しかし深く学ぶとはどういうことか、より主体的な学びを求める必要があると考えられる。 |
| 兵庫 | 神戸市立神港橋高等学校 | 課題解決型道徳教育(モラルジレンマ学習)と地域協働型キャリア教育の両輪で育む地域の”人財” | <p>年度末の総括評価として、厚生労働省が公表しているキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」をもとに、学校独自の27項目の評価基準を作成し、生徒に自己評価させている。(3「だいたい当てはまる」+4「当てはまる」の合計割合。1年生・2年生の平均。)</p> <p>すべての項目が70%以上となり、高い成果を示している。中でも「共感、傾聴(94.9%)」「TPO(93.3%)」「受容(91.9%)」「多様性の尊重(92.5%)」「非攻撃的自己主張(90.0%)」「反自己中心性(94.9%)」「感謝の念(91.7%)」「責任感(91.8%)」「言葉使い(92.0%)」はいずれも90%以上と、極めて高い成果を示し研究の成果があったと捉えている。</p> |
| 兵庫 | 明石市立松が丘小学校 | 毎日明るく楽しく生き生きと学ぶ松っ子～体育科を基軸にして、各教科・領域で主体的・協働的に学ぶ児童の育成～ | <p>「深い学び」についての理解が深まった。</p> <p>いくつかの授業研究会を関連させて考えることで、「深い学び」に対する理解が深まったように思う。第1回目の授業研では、主体的・協働的な学習における「深い学び」の必要性について考えた。第2回目は、「深い学び」とはどのようなものなのか考え、3回目につなげて考えた。その結果、「深い学び」とは2種類あることが分かった。一つ目は学びの成果物としての「深い学び」。新しい知識や技能、概念の獲得などである。二つ目は、本物の主体的・対話的な学びが実現されたとき、その学びのプロセスの中に「深い学び」が存在していたと捉えることができるということである。また、「深い学び」の実現のためには、体育の見方・考え方を働かせる必要があることも明らかになった。これらのことは体育の学習の中だけに限らず、すべての教科・領域に関係すべきことである。そのような発見があったことは、今後の研究にもつながる大きなことであったように思う。</p> |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|---|---|
| 兵庫 | 高砂市立伊保小学校 | 自分を見つめ、共に考えられる、豊かな心の育成 ～「特別の教科 道徳」における指導方法の研究～ | <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一授業の授業研究により、指導方法の研究を深め、教職員の指導力向上に努めることができた。 ○教材解釈や発問づくりの研究を進め、中心発問や、揺さぶり、切り返しなどの補助発問の工夫・改善を深めることができた。 <p>課題</p> <p>【授業づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳実践力につながるための手立てについて、具体的実践例の集積。 ・主体的・対話的な授業づくりとは、どのようなものなのか。(子どもたちが、ただ話をして終わるだけの活動にならないようにするために、教師がどうかかわるべきか。) ・児童が授業の中で、教材の内容を自分の経験と照らし合わせ、道徳で学んだことを生活の中で生かしていけるようになるために、教師はどのような学習の場を設定すればよいのか。 <p>【役割演技について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業において、役割演技は効果的であるか。また、役割演技を授業の中で効果的に行う際の留意点。 <p>【ワークシートについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの構成はどのようなものにすればいいか。(主発問とふり返りがあればいいか) <p>【評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価のための資料を蓄積していく時の「見とり」の観点について、どのような点に着目するべきか。 |
| 兵庫 | 淡路市立志筑小学校 | 学校教育目標「日本一人を大切にできる学校」を目指した、「児童が変わる・教師が変わる・学校地域が変わる取組」について | <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で・深い学び」の授業づくりにより、子ども・教師・学校が変わった。 ・毎朝続けた3文スピーチ、発表訓練で、児童が主体的に学び合う基礎の技能が身に付き、「聞く・自分の考えを持つ・発表する」により、主体的で対話的な学びとなった。 ・ルーブリックの活用で、めあてを持ち、自分事として学習し、ふり返ることができた。 ・生活・総合の研究で、身の回りから探究していくので、誰もが主役の学びとなった。 ○生活・総合の教科の力で、学校は勿論、地域が変わってきた。 ・地域に出かけ、人物ことから学ぶので、地域とつながり、地域が変わってきた。 ・生活・総合で学んだことを地域に役立てたいと願って活動するので、地域が活性化してきた。新学習指導要領の実践により「本物の教育ができる学校」の実現に大きく近づいた！！ |
| 兵庫 | 神戸市立多井畑小学校 | すべての子供たちの「もっと」を目指して ～能動的な課題解決力を育む体育学習～ | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29・30年度神戸市体育研究指定校として体育の実践研究を行い、教職員が一丸となって研修に取り組んだ。 ・新学習指導要領「主体的、対話的で深い学び」を、体育の中で実現することを研究の中心課題とした。また、「運動が苦手な児童への配慮」に取り組み、「ユニバーサルデザイン化した体育学習」の創造を目指し「日常的に運動に親しむ子」を育てようと努力した。 ・授業を工夫し、研鑽を積みながらユニバーサルデザイン化した授業を行うことで、体育が得意でない児童や、積極的に参加しない児童が、活動的へと変化した。 ・ユニバーサルデザイン化の観点を大切にすることで、特別支援的な視野が広がり、より分かり易い授業を創造することが出来た。 ・授業の目標を鮮明にすることで、児童の能動的な課題解決力も高まり、進んで学ぼうとする姿勢が育った。 ・授業に伴う様々な問題から逃げることなく、知恵を結集して新しい課題に向かって積極的にチャレンジしたことで、教師の思いが、児童に伝わり、授業が高まった。 ・教材研究の必要感を感じ、他の教科にも生かし、それが相乗効果となり、より質の高い授業の創造へと向かうことが出来た。 |
| 奈良 | 奈良県立大宇陀高等学校 | 地域と共にある魅力と活力ある学校づくり ～自他の命を大切にし地域に貢献する自律・自立した社会人の育成を目指して「自律 自立 貢献」～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○組織力を高める取組である明確なビジョンの可視化、記念植樹式等により一丸となったチーム大宇陀が実現し、教職員と生徒、保護者が共通理念をもって魅力と活力ある学校づくりを実践している。また、地域貢献や教材研究活動等を新聞やテレビ等マスコミから取材・記事掲載されたことで学校への支援者が増加した。 ○福祉施設等でインターンシップや社会との関わりをリアルに体験できる実習や丁寧な面接指導により社会性や職業観が身に付き進路実現100%という成果を上げた。 ○地域貢献や積極的な生徒指導により、生徒の自己肯定感・自己有用感の育成につながった。 ○校内で授業力の向上研究報告会で「ICTを活用した個に応じた教科指導の在り方について」報告・協議し、教員の創意工夫ある教材開発への意欲につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後も一層「魅力と活力ある学校」であり続けるためには、授業力向上に向けた更なる創意工夫ある研究実践が必要である。 ○耐震化、適正化のため新校舎建設による爆音と振動が継続中、できるだけ落ち着いた教育環境を維持し生徒の学習意欲を高める創意工夫ある取組が必要である。 ○地域との連携を深め豊かな学びを継続するために、OJTに加え愛着障害やアクションリサーチを専門とする大学教授からの指導助言を受けて教員の資質向上に努める所存。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-----------|---|---|
| 奈良 | 広陵町立広陵中学校 | 自ら学び自ら考える生徒の育成を目指して ～他者と協力して生きる力の育成(明朗・剛健・誠実) ～ | <p>研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力の育成という大きな目標を目指して学校経営を進めてきたことにより、教職員の教育活動への意思統一がなされていった。 ・生徒たちは、“自分も考えてやってみる”から“自分が考えてやってみる”へと意識が変化した者が増えて、学校生活に活気が出てきた。 ・今回の教育研究は、生徒や教職員の意識改革を生むきっかけとなった。 ・教員に、生徒の生きる力の育成を目指した「オール広陵中」の考え方が浸透して新たな取組を生み出すことに繋がった。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々起きる生徒指導等の様々な事象への対応により、計画どおりに目標に向かって進んでいくことができず、時間を要している。 ・人事異動による新たな教員が、これまでの実践の積み上げや成果をどのように消化し、参画できるかが課題である。 |
| 奈良 | 宇陀市立榛原中学校 | 子どもたちが「自ら成長を実感できる」学級づくりの推進をめざして ～夢をもち、未来への可能性を創造していく生徒の育成～ | <p>①教職員の『学校は、組織として動く』という意識が高まりつつある。 ～教職員の意識改革についての重点項目として～ 本校の合い言葉を基に、学校目標『自らの成長を実感できる学校』夢をもち、未来への可能性を創造していく生徒の育成」をめざし、教職員一丸となって取り組みを進めることができた。</p> <p>「チーム榛中」体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門性に基づくチーム体制づくり」 ・「学校におけるマネジメントの充実」 ・「教職員ひとり一人が力を発揮できる環境整備」 ・「いじめ・不登校に対する教職員の感度を高める」・校内研修の充実」 ・学校行事等、担当者だけで行うのではなく分掌を超えた体制づくりをすすめる。 ・「生徒指導体制について」は、課題の後回しをなくす。 <p>②学校アンケート『生徒の意識調査』より【今年度末アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか』という問いに対して全学年とも90%以上となった。 ・『自分にはよいところがあると思いますか』という問いに対して現3年は、40%となり、現1、2年は、55%を大きく上回った。 ・『将来の夢や目標を持っていますか』という問いに対して全学年とも65%以上となった。 ・『いじめ、不登校の推移』 ・『いじめ』の認知件数は、過去2年間より多くなった。このことは、教職員の意識の向上にも繋がっている。 ・『不登校』の(30日以上欠席者)件数は、大きく減少した。 <p>ここ数年、各学年10名を超えていた年があったが、研究期間の2年間の成果として全学年を通じて10名未満になった。これは、個別の支援を含めひとり一人の支援が進んできている。また、令和元年度より始めた通級指導も結果として大きな効果を上げていると思う。</p> <p>○生徒の意識改革について</p> <p>『自己肯定感を高める』取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や部活動、学級活動で成功感や達成感を味合わせることに努めた。 ・令和元年度、第50回全国中学校体育大会(ソフトテニスの部)において、全国優勝をいただいたことは、生徒達に大きな勇気と自信を与えた。 ・当たり前のことが否定されない学校づくりの教化に努めた。 <p>①全校朝礼 ②あいさつ運動 ③花植え作業 ④環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の10分間の清掃活動の充実 以上の点は、今後も継続して進めていきたい。 <p>『生徒理解を深める』教育相談の充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での生徒の居場所づくり ・班共創(班活動の推進) ・部活動の充実 <p>☆地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材をいかし、各学年様々な体験学習を実施することは出来たが、さらに連携を進めていきたい <p>☆今後は、この2年間の研究成果を生かし、本校の教育課題を再点検し『生徒達が夢をもち、未来への可能性を創造していく生徒の育成』に努めていきたい。</p> |
| 和歌山 | 田辺市立本宮小学校 | 「ふるさと教育」(持続可能な開発のための教育) ～熊野古道と参詣道語り部ジュニア活動を通して～ | <p>子どもの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分達の取組が全国の方々より評価していただいたことで自信をもって人前でも発表できるようになった。 ◎自分達の取組が周りの人たちに貢献できているという自己有能感を高めることができた。 <p>学校として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎持続可能な開発のための教育として「ふるさと教育」をカリキュラム内に位置付けることで教科横断的な取組を進めることができるようになった。 ◎総合的な学習の時間に位置付けている「ふるさと教育」であるが、教科で学んだ基礎的な内容を活用して発表につなげてきたところから、確かな学力として定着させることができた。教科での発表に関わる内容の確認テストでは、各設問85%以上の正答率であった。 <p>地域として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎PDCAサイクルの評価に当たる部分では、地域や保護者、観光に関わる方からもよかったところや改善点について意見をいただけるようになり、次の取組へ活かすことができた。 <p>課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域の方々を支えられているふるさと学習を進めていく中で、次の学習支援者を育てていけるように意識はしているもののまだ十分ではない。 ◆活動を継続していくために、さらに地域の方々への協力依頼ができるよう広報に努める必要がある。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|---|--|
| 和歌山 | 印南町立印南小学校 | キャラクター交流による国際理解教育の取組について ～台湾国菓林国民小学校との交流を通して～ | 台湾からの教育旅行団を受け入れたことをきっかけに、キャラクター人形による交流(テディベア・プロジェクト)を行い、国際理解教育に取り組むことができた。 ○平成31年度全国学力・学習状況調査では、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか」や「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の質問項目に対して、いずれも全国を上回り改善が見られた。 ○外国について興味を持ち、異文化を理解しようとするとともに、そこに住む人達の優しさに触れ、親しみを持つことができた。 ○国際理解のためにも、自分たちが住む郷土や文化について知ることができ、自分を振り返ることができた。 ○外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、外国語の必要性について知ることができた。 |
| 鳥取 | 鳥取市立津ノ井小学校 | 心豊かに生きる、やさしくたくましい津ノ井っ子の育成 ～主体的・対話的で深い学びを展開する道徳授業の工夫～ | ○板書が図や矢印を使った構造的なものになった。ポイントを意識することで、板書がシンプルに視覚化されるようになった。 ○中心となる大きな発問を1つか2つ考え、その中の児童の反応を問い返すことでねらいに迫っていくという授業が浸透してきた。 ○ペア学習の形態を工夫することで、児童が進んで意見交流をしたり、主体的に意見をもって学び合ったりすることが増えてきた。 課題 ●基本的なことを意識できるようになったというだけで、まだ児童の「深い学び」までには至っていないのが現状である。児童がもっと自分のことを語れる学習をめざす必要がある。 ●道徳ノート以外でどのように児童を見取り、それをどのように蓄積していくのか、評価の仕方がまだ不十分である。 |
| 岡山 | 岡山県立岡山西支援学校 | 主体的・対話的で深い学びの視点のある「育てたい力」を明確化した課題学習 | 成果 (1)児童生徒 ○「育てたい力」が明確化され、児童生徒の学力向上、自立と社会参加の充実、就労率の向上 ○専門家の指導を受けた教材を通じた児童生徒の主体的・対話的な学びの充実 (2)教員 ○発達障害・知的障害のある児童生徒に対する障害特性を生かしたタイル算を使った加減乗算、時計、金銭等の生活に生きる国語、算数・数学の指導力の向上 ○発達障害・知的障害のある児童生徒に対する個への指導力及び集団学習における授業力の向上 (3)学校 ○国語、算数・数学の小学部・中学部・高等部までの一貫したカリキュラムマネジメントの充実 ○教材の共通理解、共有による教材作成の時間の削減による働き方改革の実現 (4)地域 ○公開授業・研究発表会等による、地域の特別支援教育の充実 課題 (1)国語、算数・数学科の枠を超えた教材活用:授業力の向上 (2)新学習指導要領と教材の関連表のさらなる充実 (3)「深い学び」へのアプローチ |
| 岡山 | 矢掛町立矢掛中学校 | 道徳推進教師を中心とした道徳教育の指導体制の充実 ～ローテーション授業を軸として～ | ・成果① 計画的な授業実施 ローテーション授業では、「授業の分担を学年団の全職員で決定した」という認識が教師にあるため、これまでの道徳のように軽視されにくくなり、授業が振り替えられることが減少した。また、授業で実施する道徳的価値についても授業を分担する際に配慮しているので、年間指導計画を意識して授業を行うことができた。 ・成果② 教師の実践意欲と授業力の向上 1つの授業デザインを複数のクラスで授業実践ができ、次のクラスで修正、改善をして実践できるために、授業の実践意欲が向上し、授業力を高める作用を働かすことができた。 また、ローテーション期間中は1つの授業デザインでローテーションするため、別の資料の授業デザイン作成までに複数週ある。したがって、道徳の授業の負担感を減少させ、同僚の道徳授業を参観することができる。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|--|---|
| 広島 | 広島市立毘沙門台小学校 | 主体的に学習に取り組む子どもの育成 ～総合的な学習の時間のポートフォリオ作りを通して～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度は、「書くこと」の領域の通過率が53.9%（平成30年度）から60.6%となり、目標値（60.0%）を上回った。ノート指導を中心に「書く」活動に重点を置いてきた成果だと考える。 平成31年度は、「数量関係」の通過率が50.3%（平成30年度）から70.0%と目標値（60.0%）を上回った。ノート作りや話し合い活動に継続的に取り組んできた成果だと考える。 「学びのサイクル（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）」を全学級に掲示し、総合的な学習の時間を中心に活用することができた。 子どもたちが学習活動において収集した情報や記録、振り返りなどの学習履歴をポートフォリオとして蓄積することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に算数科において、計算の仕方等について説明する問題に課題が見られた。自分の考えを持つことができても根拠を基にして説明する（書く）力が十分に身に付いていない。 今後は、なぜその考えに行き着いたのか、何が根拠なのか等が明確になるよう、意図的に質問を繰り返すようにする。また、箇条書きで根拠を示すなどポイントを押さえて説明することや学びのサイクルの中の「整理・分析」の学習を生かし、自分の考えを整理することを指導していく。さらに、引き続き、自分の考えと理由をノートに書くように指導する。 総合的な学習の時間に学習した「学びのサイクル」を他の教科等で十分に活用することができなかった。他の教科等においても、学習場面で適宜活用できるようにする。 ポートフォリオを子どもたちの思考を深めるツールとして十分に活用することができなかった。引き続きポートフォリオを作成するとともに、ポートフォリオを活用して効果的に学習を進め、子どもたちの探究的な学びを促進していきたい。 |
| 広島 | 広島市立段原小学校 | 積極的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成 ～小集団での対話を生かし、自分の考えを広げ深める授業づくりの工夫を通して～ | <p>1 主体的な学びを促す工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ベアやグループごとの音読→互いの良さを伝える→指導者からの肯定的評価 ② 参加型板書→黒板を児童に開放することで意欲向上 ③ 学習課題の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが対話したくなるような学習課題 ・学習者が選択・判断する場面を設定する学習課題 「Which型課題」→自己決定 「Why型課題」→意見を分類・整理して焦点化し、立場を決めて話し合い <p>2 交流活動の場の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個別自由交流→違う立場の人を選んで話し合い→自分の考えの広がりや深まり →自分の考えに共感してもらえた→自己肯定感の高まり ② 全体交流→子供たちの発言をつなぐ指導者の役割の重要性→今後の課題 |
| 山口 | 和木町立和木中学校 | 園・中連携を活用した生徒の心の育成 ～和木学園構想における園・小・中一貫教育の一部として～ | <p>生徒の心の育成として「思いやりのある生徒の育成」を目指し、こども園を中心とした地域ボランティアを組織した。ほめられたり、感謝されたりする活動を意図的に仕組むことで生徒の自己有用感を高め、思いやりの気持ちを育んだのである。ボランティアは本当に感謝されるものを厳選し、園や地域からのおほめや感謝の言葉が生徒に伝わるように工夫した。活動は質を高める3つの段階（触れ合う→手伝う→企画する）と質を高める3つの活動（感謝される、誇りに感じる、親しみを感じる）を意識し、生徒がより自己有用感を感じる活動を段階的に組織した。また、園小中連携カリキュラムの作成や、園小中合同コミスク研修会なども行い連携を深めた。</p> |
| 徳島 | 東みよし町立足代小学校 | プログラミング教育を他の活動と関連づけることの重要性についての研究 ～プログラミングの授業における課題設定に注目して～ | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校プログラミング教育の実施にあたっては、教師から課題を与えるだけではなく、実際の生活における課題を見つけ、それらを解決するための方法を考えるような課題を設定することが大事である。 ・プログラミングツールについては、ビジュアル型、ロボット型、ボード基盤型をまんべんなく用意し、体験させることで、プログラミングに関する共通の考え方を身に付けることができる。 ・プログラミングA、B分野への取り組みは、C分野でのプログラミングの慣れがあつてこそ、プログラミング的思考に基づいた教科のねらいに迫ることができるので、学校のカリキュラムとして、C分野の体験を確実に行う事が大切である。 ・子供にとっての学校毎の身近な課題をリストアップしておくことが有効であると考えられる。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|--|
| 福岡 | 北九州市立高見中学校 | 各教科等におけるICT機器を活用した「わかる授業」の創造 ～生徒同士が主体的・協働的な学習を通して理解を深める指導法を探って～ | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、自立走行型ロボット等の二次元(平面)上での課題解決な学習であったが、プログラミングドローンの導入により、三次元の空間の中での課題解決的な学習ができ、より高度なプログラミング的思考を児童に身に付けさせることができた。 ・本実践は6年生で行ったが、災害支援を目的として、絆創膏の箱を体育館のステージからバレーネットを避け、後方のゴールまで出力や進行方向、高度や距離などを考えながらプログラミングを行い、救援物資を目的地に運ぶというミッションに挑戦した。 ・本ドローンは、バッテリーが小さく7分しかもたないことや、バッテリーの容量により、電圧が変化することによって出力が変化し一定しないため、飛行に規則性が見られないことが苦勞した点であった。そこで、目標距離に幅をもたせて大きく設定する等して課題を設定するようにした。 ・近い将来、ドローンを使い、荷物を無人で宅配するようなシステムが構築されるといわれている中、そのような時代に対応できるようなプログラミング的思考を身に付けさせることができた。 ・プログラミングドローンを導入することにより、児童は最新の科学技術に触ることができる機会を得ることができ、児童に目的に応じた飛ばし方をするという、未来の社会に対応できるスキルを身に付けさせることにつながった。 ・本実践により、児童が将来進んでいく道の選択の幅を確実に広げていくことに繋がったと考える。 |
| 福岡 | 北九州市立高見小学校 | ロボット教材を活用した「プログラミング的思考」の育成 ～自立走行型ロボット教材やプログラミングドローン教材を活用した一考察～ | <p><研究の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育科の授業において、生徒自身が毎時間タブレットPCを活用して目標設定や活動記録、振り返りを記録して全体で共有する授業が定着し、主体的・協働的な学習を進めることができた。また、他教科でのタブレットPCの活用への推進力となった。 ○ 教科の学習のみならず、学校行事等の様々な場面でのタブレットPCをはじめとするICT機器の活用が広がり、生徒の情報活用能力の育成が一層進んだ。 ○ 年間3回のICTを活用した授業を全市に公開することで、北九州市におけるタブレットPC活用の先進校としての役割を果たすことができた。 <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全教科においてタブレットPCを活用した主体的・協働的な学習を一層すすめるため、教員のスキルアップを図る。 ○ ICTの活用による教員の働き方改革、負担軽減についての研究を進める。 |
| 福岡 | 遠賀町立遠賀南中学校 | 学力向上のための基盤づくりに関する実践 ～校種間連携による基本的生活習慣及び学習習慣、基礎基本の定着を目指して～ | <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程の各段階において、目標を設定したり、話し合う時間を確保したりするなど、取組の向上が見られた。振り返る時間を確保し、その時間で学習したことを再認識することで、学習内容はより一層定着すると考える。振り返りの目的や意義を再度共通理解することが今後重要である。 ○「思考の方法」とその視点を明らかにし、授業に取り入れる授業改善の意識が高まってきた。授業の主眼の達成につながるように設定する必要があると考える。 ○小学校では、8割近くの児童が話型を活用することができている。小学校で行った話型の活用をどのようにして中学校に接続するのかを明らかにしていかなければならない。 ○通信機器の適切な使用については、使用時間の抑制等一定の成果が得られた。一方で、通信機器の所持については低年齢化が進み、小学校の平日の使用時間が増える退傾向にあるため、小学校においても通信機器の使用について指導したり、家庭への啓発を充実させたりするなどの取組が必要と考える。 ○学習習慣の確立に取り組んできた結果、児童生徒の家庭学習時間の充実等改善が進んだ。 ○基礎学力の定着や指導体制の整備等一定の成果が得られた。今後は、時間の取組の充実に向けて、小学校間や中学校間、また小・中学校間で交流を深め、実施方法等について改善を進めること、児童生徒の基礎的基本的な事項の習得状況や学力低位層にある児童生徒の学力や指導状況について、情報を共有化することに取り組む。 |
| 福岡 | 豊前市立宇島小学校 | 自分の考えをつくり、表現する子どもを育てる国語科、算数科学習指導 ～学び合いの活性化とふりかえり活動の工夫を通して～ | <p>3つの着眼に関わる研究の成果(○)と課題(●)</p> <p>【着眼1】習得した内容や方法を活用する学習過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主事象と追事象を学習過程に位置付けたことで、習得したことを活用して課題に意欲的に取り組めるようになった。 ●より学びが深まるような追事象の活用の仕方の追究。 <p>【着眼2】学び合いの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合いの中で、考えを説明したり、アドバイスし合ったりすることで、自分の考えを付加、修正することができ、全員が参加できる授業へとつながった。 ●学び合いがさらに活性化できるような手立ての工夫。 <p>【着眼3】ふりかえり活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○その時間の学びを客観的に見ることができ、満足感を味わったり、不十分さに気付いたりして、よりよい学習をめざす態度へとつながった。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|--|--|
| 長崎 | 諫早市立小長井小学校 | 自信と理解を深める算数科授業の創造 ～学び合いの場の効果的な位置付けを通して～ | <p>1 研究の成果</p> <p>(1)授業づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元概要図の作成により、各学年のつながりを意識した授業実施が可能となった。 ○既習事項を常に確認しながらの授業が定着してきた。 ○学ぶこと、学び合うことへの主体性が高まり、そのことが分かること、できることへの喜びに結びついてきた。 ○明確なめあてを立てることにより、子どもを同じ思考の土俵に上げて授業を実施できるようになった。 <p>(2)豊かな心の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちが以前と比べて、有能感(自信)、自己決定感をもてるようになってきた。 ○自分とは異なる立場の心情を考えるなど他者受容感が育ってきた。 ○相手に対する反応や譲り合う姿に、成長が見られた。 <p>2 今後の課題について</p> <p>(1)授業づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を定着させるための環境づくり ○教師の「問い」の質の向上 ○「学び合い」にふさわしい手立ての見極め ○家庭学習との連携 ○授業内での一人学びと協同学習の位置付け、時間等の見直し <p>(2)豊かな心の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○より豊かな心を育てるために、全校だけでなく学級単位で共に学ぶ楽しさを味わえる取組の充実を図る。 ○ゲーム要素のあるソーシャルスキルだけでなく、実際の生活場面において、他者を受容していく内容を盛り込んだソーシャルスキルタイムの改善・充実を図る。 |
| 長崎 | 杵岐市立田河小学校 | 学び合う喜びを実感し 共に高め合う子どもの育成 ～算数科における「ねりあげ」の指導の工夫を通して～ | <p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ねりあげの指導の工夫として、話型やねりあげの視点を作成し手立てを工夫したことで、学び合いを楽しむ児童を育てることができたと考える。 ○児童は、ねりあげでの話し合いを徐々に活発にできるようになり、いろいろな考え方をまとめていく活動を積み重ねることができるようになった。 ○教師は、指導案を考えたり、授業を計画したりする際に、「ねりあげの手順」を工夫することで、児童の考えを予想すること、児童の考えをつなげること、児童の考えの提示方法を工夫することなどを重視して授業を改善することができた。 ○ねりあげの場面を充実させ、児童の主体的な学び合いを推進することで、算数科の学力の底上げを図ることができた。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び合いを楽しむ児童を育てるためには、算数科のねりあげの場面の充実を図るだけでなく、問題の工夫や課題のめたせ方、さらにはふり返りの方法も工夫していく必要がある。 ○「算数科のねりあげの場面での学び合いの質を高める手だて」を他教科でも活用することで、さらに、主体的、対話的な学びを楽しむ児童を育てていく。 |
| 長崎 | 南島原市立南有馬中学校 | 教職員の働き方改革の推進 ～これからの社会変化に対応し、授業改革を推進するために～ | <p><研究主題の主要な研究成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 超過勤務時間の集計から、教職員の超過勤務を減らすことができたことに加え、教職員の主観として、取組の有用感も高まった。このことにより、「多忙」および「多忙感」を改善することができたとされる。 2 今回の研究活動を通じて、労基法や給特法等の法令の内容、一般企業等における働き方改革の状況などを教職員で共有することができた。このことにより、本校における働き方改革の方向性や目標の設定、今後さらに取り組むべきこと等を明確にすることができた。 3 学校の働き方改革における部活動という課題の大きさを改めて確認することができた。このことについては、日本のスポーツ文化にも関わると考えられるが、取り組まなければならない課題である。 4 資料や用具、各種のPCデータなど、ルーティン化したり共有したりできるものは整理し、年度を越えて改善のアイデア等を蓄積する仕組みを作ることができた。 |
| 熊本 | 産山村立産山学園 | 仲間とともに歩み、夢をつむぐ産山学園生の育成 ～義務教育学校における社会に開かれた教育課程の編成～ | <p>義務教育学校のメリットを生かし、社会に開かれた教育課程の編成、インクルーシブ教育システムの構築など、子供たちが生きていくために必要な資質・能力(「学ぶ力」「考える力」「未来を拓く力)」を図る教育活動を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4-3-2のステージ制、知・徳・体の校務部会による校務運営を行うことで、義務教育9か年の連続性や継続性にも配慮した指導の改善が図られた。 ○一斉指導の工夫・一斉指導の中での配慮・個に特化した指導のつまずきを想定した「参加」「理解」「習得・活用」の階層的な授業構想モデルによる授業のUD化を進めたことで、授業展開の構造化が図られた。 ○特例教科「英会話」「うぶやま学」「チャレンジ学習」を教科横断的な視点で学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として捉えなおすことができた。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|------------|--|---|
| 熊本 | 熊本市立画図小学校 | 思いや考えを伝え合う力の育成 ～語彙を増やし豊かに関わり合う活動を通して～ | <p>①今年度の授業日は2月28日(金)までと例年より1カ月短かったが、学校図書館の本を年間100冊以上借りた児童の人数が44人、そのうち200冊以上が7人であった。読書に取り組む児童が目立った。</p> <p>②学びノート掲載の詩歌20編すべてを暗唱した児童が昨年度は76人、今年度は2月末現在で70人であった。また、7割以上の児童が昨年度よりも多く暗唱することができた。</p> <p>③学力調査(3～6年で実施)の結果、3・4・6学年が国語の全領域で全国平均並びに熊本市平均を上回る成績であった。前年度、全国平均を大きく下回っていた5学年も向上し、全国平均と同じ成績であった。</p> <p>課題 *読書量・暗唱の数・学力調査の数値が向上したのは、すべての児童ではない。大規模校ではあるが、すべての児童が向上するよう努めていきたい。</p> |
| 宮崎 | えびの市立飯野小学校 | 主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てる特別活動の創造 ～主体的・対話的で深い学びにつながる話し合い活動(学級会)の実践を通して～ | <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習過程(SPDCサイクル)や指導方法を確立させたことにより、質の高い話し合い活動(学級会)になるよう指導することができるようになってきた。 ○ 本校独自の評価規準を作成したことで、目指す資質・能力及び学年の系統性を明確にすることができた。 ○ 学級会後の児童の感想から、「自分の考えとは違ったけれど、みんなで決めたことなのでうまくいきそう」など、合意形成が図られていることが確認できる。 ○ 学級会コーナーや学級会ノートを工夫したことで、児童が基本的な進め方を理解し、主体的に話し合い活動に臨むようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 計画委員会の指導に昼休みや放課後の時間まで使うなど、時間を要した。効率よく、かつ指導効果の高い計画委員会が実施できるよう、工夫・改善していきたい。 |
| 鹿児島 | 鹿児島市立中州小学校 | 道徳科における主体的・対話的で深い学びの実現 ～「考え、議論する道徳科」の充実を通して～ | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校なりの道徳科授業モデルが明確になり、道徳科授業の進め方が共通理解できたことで、道徳授業が改善された。 ・ 発問や板書を工夫することで、道徳的価値について多面的・多角的な見方をする子供の姿が見られるようになった。 ・ 発問を工夫することで、子供が道徳的問題を自分事として考える姿が見られた。 ・ 授業研究が改善されたことで、研究協議が充実し、研究の深まりを感じた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各単位時間における授業のねらいを明確にして、中心発問及び補助発問を設定する必要がある。 ・ 「考え、議論する道徳科」になるよう、自他の考えを述べ合うことができるよう、発達段階を考慮した学習形態の工夫も推進する必要がある。 ・ 授業、通知表、指導要録の評価が有機的に関連するよう、ひとまとまりの道徳科の評価はどうあればよいか、子供の学びの事実の累積を通じた実践・研究を進める必要がある。 |
| 鹿児島 | 鹿児島市立伊敷中学校 | 新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた生徒の育成 ～「生徒の学び」に視点を当てた授業改善とカリキュラム・マネジメント～ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 深い理解に至った生徒の姿を想定し、そこに至るまでの追究過程を想定しながら、授業を組み立てたことで、既有知識や授業で得た新たな知識を結び付けながら考えようとする生徒の姿が見られた。 ・ 思考ツールを用いて考えを可視化することで、対話しやすくなり、考えを広げ深める生徒の姿が見られた。 ・ リフレクションカード等を作成し、生徒に学習内容や学習過程を振り返らせることで、自分の考えの変容に気付いたり、学びに対する手応えを感じたりする生徒の姿が見られた。 ・ カリキュラム・マネジメントを行った結果、生徒アンケートにおいて汎用的な資質・能力が身に付いていると回答する割合が高くなった。 |
| 鹿児島 | 枕崎市立桜山小学校 | 自ら学び合い互いに認め合う笑顔あふれる子どもを育成する「桜山」の小中連携教育 ～まなび・こころ・からだ・地域のつながりを深めて～ | <p>鹿児島県本土の南端に位置する枕崎市では、市内4小学校4中学校がそれぞれに、「まなび・こころ・からだ・地域」4つの視点で小中が連携した取組を進めている。私たち桜山校区においても、主題に沿って、継続した研究を進めてきた。今年度は、中学校教員による乗り入れ授業を積極的に取り入れたほか、中学生の職場体験受け入れや発表会への小学生の参加、中学校による読み聞かせ、小中合同の体力づくりやあいさつ運動、PTAの合同事業運営などの取組を行った。</p> <p>成果としては、学力面において、1月に行われた鹿児島県独自の学力調査で、両校共に全教科で県平均を上回る結果を残したほか、職員の小中連携に対する意識も高まり、活動がよりスムーズに行われるようになった。今後も、小中連携の基盤となる学力向上(指導力向上)を中心としながら、更なる研究の深化を図っていきたい。</p> |
| 鹿児島 | 龍郷町立大勝小学校 | 主体的に問題を解決していく子どもの育成 ～算数科における学習指導方法の工夫・改善を通して～ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習事項や日常生活との関連を意識的に取り入れることで、解決に必要な既習事項を基に見通しをもたせることができるようになった。さらに、関心・意欲を高め、子どもに算数の勉強が生活に役立つことにも気付かせることができた。 ○ 机間指導でのつぶやきを効果的に活用しながら、子どもの思考への働きかけを取り入れたことで、子どもの自立学習や充実へとつながった。 ○ 何に注目すればよいか意図的な発問をしたり、共通点によって考えをつなぐ発問をしたりしたことで、自分の考えに自信をもって伝えることができたり、いろいろな視点で考えることができたりするなどの姿が多く見られた。 ○ 単元の振り返りを行うことで、単元のもつよさに気付いたり、友達の考えのよさに気付いたりしている。 |

| 都道府県 | 学校名・名前 | 研究主題 | 研究主題の主要な研究成果 |
|------|-------------|---|--|
| 鹿児島 | 出水市立米ノ津東小学校 | 働き方改革における業務改善に関する取組 | <p>(研究の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校組織の効率化を図るために、校務分掌の再編を行った。具体的には、各学年部を教務・生徒指導・保健領域に割り振り、一人一人の責任の所在を明確にし、同時に領域内のチーム化を図った。 校務文書や評価の電子化、ICT機器の積極的な導入、職員の動線の改善など施設、環境面の改善を図った。 計画的な人事による、外国語専科・社会科専科・事務職員1名追加など、人的環境の充実が図れた。 在校時間を厳密に設定し、そのために行事の精選や地域活動の削減を行い校務の簡素化が図れた。 勤務の超過平均時間は、業務改善に取り組む3年前より10時間程度縮減できた。 <p>(研究の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教頭の勤務時間の削減や若い教員の校務処理の時間確保が難しかった。 |
| 鹿児島 | 鹿屋市立吾平小学校 | 主体的・対話的で深い学びを実現する算数科指導方法の研究 ～教師と子どもで創る「学び合い」の授業を通して～ | <p>1. 研究の成果</p> <p>(1) 鹿児島県が実施している鹿児島学習定着度調査(5年生対象、1月実施)の算数科において、県平均を超えることができた。(県平均通過率76.7%、本校通過率77.1%)</p> <p>(2) 全学年で、算数科の授業を中心に「学び合い」の授業スタイルが定着してきており、児童が自分たちで聞き合いながら、問題解決を行おうとするようになった。</p> <p>(3) 毎日の「学び合い」の学習の助け合いが日常的になっているため、児童間の人間関係が良くなっている。</p> <p>(4) 職員の学力向上への意識が高まり、学習指導面での職員間の情報交換の場が多く見られるようになってきた。そのことにより、学校全体の職員の協働性が高まっている。</p> <p>2. 研究の課題</p> <p>(1) 算数科以外の教科でも、「学び合い」をどのように取り組んでいけるかが課題である。</p> <p>(2) 学び合中で、友達に教えてもらっている児童のOUTPUTを、どのように増やして、全員にしっかりと思考させ、学習をより定着していかかが課題である。</p> |
| 鹿児島 | 大崎町立野方小学校 | 確かな読みの力を育む学習指導法の工夫 ～説明的文章における系統的・段階的な指導を通して～ | <p>鹿児島県学習定着度調査の県・地区・本校との平成29年度と平成30年度の数値の比較をしてもみると、全ての教科が、年を追うごとに県を大幅に上回った。特に、研究してきた国語科の「読むこと」や「読む能力」との相関関係が見られ、研究していた観点における学力の定着や向上が、顕著に現れた。また、平成31(令和元)年全国学力・学習状況調査でも国語科、算数科とも平均を約17ポイント、9ポイント以上、上回ることができた。1単位時間の授業の中で2回の音読の場を設定したことで、「内容を理解しやすかった。」というような声を子供たちからも聞くことができ、子供が読むことの楽しさを感じ、音読に積極的に取り組み、自信をもって読めるようになってきたことを実感した。</p> |
| 鹿児島 | 南種子町立西野小学校 | 西野児童を高めるため、全職員で設定する学校教育目標 ～自尊感情を高める「もろとも」の教育の実現に向けて～ | <ul style="list-style-type: none"> 全職員で学校教育目標を設定していく過程を経たことで、全職員の学校経営参画意識を高めることができた。 自尊感情を高めることを全職員が意識しており、児童への講話等の内容が工夫されている。 自尊感情の向上をさらに図るために、文科省の人権教育研究指定校を受け、2か年の研究実践を進めていくことができた。 自尊感情を測る検査では、全体で16点中12～13点である。児童は、自分のよさを自覚しつつあるが、まだ不十分な児童がいる。 <p>全教育活動を通して、自他のよさを自覚できる児童を育てていきたい。</p> <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して自尊感情を高め、自他のよさを自覚できる児童を育てるために、次年度の教育課程を縦断的・横断的に見直していく。 |
| 鹿児島 | 奄美市立宇宿小学校 | 自分の考えや気持ちを伝え合う子どもの育成 ～教科化を見据えた複式外国語活動を通して～ | <p>成果</p> <p>○単元終末の言語活動へ向けた授業の構想やコミュニケーションスキルの指導を行ったことで、子どもが語句や表現を考えたり、話し言葉以外の方法を用いたりして自分の考えや気持ちを伝え合う姿が見られるようになってきた。</p> <p>○一単位時間の終末に共通活動を設定することで、それぞれの学年で扱う語句や表現が、既習内容の再確認や次年度の見直しとなる効果もあった。</p> <p>課題</p> <p>△外国語を学習することに難しさを感じている子どもも見られ、教師がOutputに多くを求めすぎているのではないかと感じた。語句や表現に十分に慣れ親しませ、子どもが自信をもってコミュニケーションを図れるように指導していく必要がある。</p> <p>△共通指導単元の際に、初めて出会う単元の下学年と、二回目になる上学年の学習活動をどのように設定していくのか、今後も研究を深めていきたい。</p> |

令和元年度 教育研究助成応募【団体研究】

| 都道府県 | 学校名・団体 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|-----------------|---|---|
| 神奈川県 | 横浜市立鴨居中学校 | 学校に新しい風を！ ～ICT活用と民間連携を柱にした学校改革～ | <p>〈研究の成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務改善は、簡略化、簡素化は着々と進んでいる。 24時間欠席受付や双方向のシステムは有効であり、保護者に定着してきた。 電子申請システムの活用が広がっている。QRコードを読み取り、入力することが日常的になっている。 令和元年度の職員の意識調査では、仕事への意欲向上や、授業実践の自己評価の値が上昇した。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用について、職員間でスキルの差がある。研修の時間を設けるのも難しい。 スキルアップのためには、お互いに教え合うという職場の雰囲気も大事である。 教職員の意識と、保護者のアンケートの結果が乖離している。アンケートの設問や内容を検討したほうが良い。 |
| 新潟県 | 算数・数学の教科書を読む会 | 九九表のきまりをよりよく理解するために ～パズルを用いたわかり合いの工夫を通して～ | <p>本研究における成果と課題を以下に示す。</p> <p>成果としては、算数が苦手な児童の学習意欲の向上である。仲間と協働的に行う学習活動の場面を意図的に設定することで、算数が苦手な児童は算数の問題をやらされているという意識をもつことなく算数の問題に取り組むことができたためであると考えられる。</p> <p>課題としては、1時間の学びを学級全体で共有するための時間の確保である。授業の途中や終末において、授業での気付きや学びをしっかりと共有することが大切であると考えられる。しかし、授業時間内にすべての気付きを共有することは、実際には難しかった。授業の中で発言できなかった内容についてノートに書いて提出してもらい、児童に価値付けて返すなど、工夫の余地が残された。</p> |
| 新潟県 | 大海の会 | 主体的・対話的で深い学びの実現に迫る学習課程づくり ～既習の知識・技能を活用する指導の在り方～ | <p>【研究の成果】</p> <p>会員の実践研究をとおして、下記の成果を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「戦術アプローチ(ゲーム→修正→ゲーム→・・・)」による学習者主体の授業組織によって単元を構成することで、チーム・個人の主体的な学びを促し、自チームの課題を明確にもたせることができた。 「アダプテーションゲーム(対戦相手に応じてルールを変えられるゲーム)」を教材化することで、チームそれぞれの戦術的課題をゲーム内で解決しやすくなることになった。 「メインゲームの段階的なルール変更」を取り入れて単元を構成することで、各ゲームに設定された戦術的課題の解決につながる学びを児童自身が実感しながら授業を進めることができた。 |
| 新潟県 | 魚沼市教育振興会学校保健部 | 健康な生活を送るために、自分の生活を見つめ、考え、行動する生徒の育成 ～自立性を育む保健指導の工夫～ | <p>1成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「何を提示するか」「どのように話し合わせるか」「どのように支援するか」の3つの視点で行った授業と協議によって得られた知見を市内の養護教諭が共有し、各校で実践を継続している。 既存の活動(生活習慣改善の強調週間等)に、本研究に基づく授業や支援を取り入れて、効果を上げている学校がある。 <p>2課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いによって考えを深めるには、動機づけが大切である。養護教諭の専門性を生かした資料提示や問題提起の仕方を工夫していく。 分かっているけれど出来ないという実態を踏まえ、ホワイトボードミーティングやワークシートを用いて話し合いが深まるようにした。「どのような順番で」「何を問うか」「何を示すとよいか」の視点をもって実践を積み重ね、さらなる改善を目指していく。 |
| 新潟県 | 五泉市・東蒲原郡中学校教育研究 | 生徒の見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る 生徒の育成 | <p>主要な研究成果</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2時間構成にしたことにより、課題に対する理解が深まり、より自分の考えを活用しようとする姿が見られた。 ○生徒にとって現実味が感じられる、実生活に結びつく課題であり、より解決したいという意欲につながった。 ○発問や指示を工夫したことで、前時の内容から本時の課題への流れがスムーズだった。また、「本当にB社でいいのか」と問い直したことで、自ら得られた結果をもう一度、日常生活や社会の事象に戻して、再検討しようとする姿が見られた。 ○生徒の課題解決の進行状況を全員が可視化したことで、相談しやすくなり、話し合いがさらに活発になった。 <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の電気使用量について、生徒に情報をどこまで提供すべきか、検討、改善の余地があった。 ○生徒の「自信度」を黒板に可視化した際、意見の違いも示させてもよかった。その後の話し合い活動で、違う意見の生徒と交流する場面を設定することで、生徒の思考がより深まった。 ○教師が、生徒の意見をつなぐ「コーディネーター役」になることで、より話し合い活動が活発になると感じた。 |

| 都道府県 | 学校名・団体 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|-------------------|--|--|
| 石川 | 石川県立小松工業高等学校 | 高等学校ロボット競技大会参加指導を通して教師の指導技術向上を図る | 「高等学校ロボット競技大会参加指導を通して教師の指導技術向上を図る」 ロボット競技大会に参加するロボットの製作を通して、機械を製作する技術の定着はもとより、物事に対する取り組み方や積極性を身につける活動をしている。 課題として「当日に最大限のパフォーマンスを出す準備」を掲げた。試合の瞬間を想定して、ミスのない操作ができる機械作りをし、機械に対して「熟練」という状態まで練習することはもちろんだが、怪我以外の失敗は敢えて極力経験させる、小さなミスはミスとして認めミスの対策をたくさん経験することでミスを事前に想定できるようになり、試合中最も高いパフォーマンスに調整する。この活動の「おもしろいものづくり」と「使う人のためのものづくり」を生徒が経験して、世の中を豊かにするものづくりを行う人材へと成長を遂げた。 |
| 岐阜 | 海津市小中学校教育研究会事務 | チーム海津の学校事務スタンダードの構築 ～「共有」「連携」「協働」を通して事務力アップ！～ | 「人が代わってもかわらない学校事務、経験年数に左右されない学校事務」を目指し、全体研究として学校事務全般に主体的に関わるための「職業感」を培い、グループ別研究では目指す学校事務職員像の具現に向けた具体的な方策を立て、市全体で平準化された学校事務を展開することを目指した。 ○研究を通じて事務研組織が基盤となり、ソフト面ハード面の体制を整えることで、各校で事務職員が事務力を発揮し、海津市全体のベースアップにつなげることを可能にした。 ●研究の過程においては、他の組織等と「連携・共有」が図れていても、実務になると十分には「協働」することができておらず、「学校事務全体をつかさどる」という点では、課題が残る。 |
| 愛知 | 西春日井地区小中学校教務主任 | 義務教育9年間を見据えた学習指導の実現を目指して ～中学校区を中心とした小中・小小連携を通して～ | ① 情報共有のネットワークの確立 ② 他校の様子の見える化 ③ 義務教育9年間のつながりの強化 改善した学習プリントなどを共有ネットワークに保存することで、よりよいものが蓄積できるようになった。また、授業参観や研究協議の連携で、子どもの実態把握や指導改善ができた。 【今後の課題】 ① 連携の必要性を明確にして取り組む点 ② 連携の中でも各学校の特性を大切にしていく点 日々の業務に追われ、連携を疎かにしてはいけない。今後も、目の前の子どもたちと一人一人の教員のよさを大切にしていきたい。 |
| 愛知 | 愛知県立犬山高等学校 | 地域の活性化と学校の独自性を活かした授業改善の方策に係る研究実践 ～ALの手法と主体的・対話的で深い学びの視点を柱として～ | 本研究は①「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の工夫」、②「犬山の歴史や観光資源等を意識した地域連携やキャリア教育の取組の推進」、③「教科横断的なカリキュラムの開発等」の3つを目的とした。これらの目的について、まだまだ達成途上ではあるが、成果として生徒・職員の中に新しい「学び」の萌芽が見られたことは確かである。すなわち、「この地域の将来を見据え、どのようなことができる生徒をどのように育成するか」という命題に対して、責任をもって取り組むこれからの本校の礎となったと考えている。今後、その「学び」を基に本校の教育目標である「地域の活性化に資する」人材、「想定できない社会を生き抜く力」のある人間の育成を目指していきたい。 |
| 山口 | 3化(見える化、操作化、スモール) | 知的障がい児学級におけるプログラミング教育の実践について ～見える化、操作化、スモールステップ化～ | 成果としては、プログラミング教育において「見える化」「操作化」「スモールステップ化」は、知的障がい児には重要なキーワードとなった。具体的には、ペットボトルキャップを自分の手で動かしながらプログラミングしたり実際にロボットを動かしたりすることで思考に強く関連させることができた。また、小さなステップを踏むような課題を示したりロボットが認識する色を「黒」と「白」にするなどの単純化することなどで、関心の持続性と確実な理解・習得に寄与した。 課題としては、児童一人一人の理解度や関心度に差にどのように対応するかや、「プログラム言語を使うプログラミング」をどのように実践していくかということがある。 |

令和元年度 教育研究助成応募【個人研究】

| 都道府県 | 学校名・個人 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|------------|--|--|
| 東京 | 東京都立保谷高等学校 | 持続可能な社会の担い手育成に向けて ～3つの評論文による単元学習を通じて～ | 主な研究成果 今年度は以下のことに取り組んだ。 ① SDGsについて、世界の現状、国際協力にあたって現地で私が感じ学んだことについて2学年に対し講演し、生徒達の意識・理解を深めさせた。 ② ①での講演で、国際協力やボランティアに興味のある生徒を募り、西東京市役所と連携して、石神井川の清掃や環境問題への意識が高いオランダの高校生とe-mailを通して意見交換をし、一年間で一番ごみが出される文化祭のゴミを来場者に分別してもらい工夫を施したごみ箱を作成した。 成果としては、これまでボランティアマインドがあってもなかなか行動にうつせなかった生徒たちに、具体的な一歩を踏み出させる場を提供できたことだ。生徒達は実際に現場に出て、プラスチックごみだけでなく、石神井川に布団や個人情報記載されたカード等思いもかけなかったものが捨てられていたことにショックを受け、分別の大切さに気付いていった。自分たちの心と頭で考えたごみ箱は来場者の目に留まり、ごみ問題の深刻さを近隣の来場者だけでなく、本校の生徒の意識も喚起させることが出来た。 課題は、文化祭でのごみの総量を減らすことが出来なかったことだ。次年度の文化祭で各クラスの企画の段階から、ごみの総量を減らす工夫を促す予定である。 |
| 神奈川 | 厚木市立戸室小学校 | 10分間で描く観察画 ～小学校中学年の理科における観察画の指導～ | <ul style="list-style-type: none"> ・「具体的に8項目の描画方法を指定すること」と、「平面を練習を数回行った後に実物を描画させる教材提示方法」は、効果があったと考える。 ・屋外よりも室内のほうが集中でき、整った観察画が描けることがわかった。 ・観察対象として樹木の枝が優れていることがわかった。動きがなく、班の数だけ準備しやすく、室内で描けるからである。 ・樹木に咲く花を描かせたときに「部分」としての「花」だけを描く児童が減り、「枝全体」を描く児童が増えてきたら、学級としての描画する力と観察する力が伸びてきたと考えることができる。観察画を描く力を測定する良好な方法であると考えられる。 ・教材を観察しやすい状態で用意し、描画する回数を増やすことが(10回以上)、大切である。 |
| 新潟 | 柏崎市立大洲小学校 | 多層指導モデル(MIM)を通して読みの流暢性を高める指導の工夫 ～小学1年生の通常学級担任との連携に着目して～ | 「読みの力」は「書きの力」にも直結することが多く、全ての教科に影響が大きいと、ひらがなの学習入門期に、読みの流暢性を高める支援が必要と考えた。 「多層指導モデルMIM」を通常学級の1年生に取り入れ、毎月のアセスメントのほか、通常学級の担任と連携して日々の授業の中に「読み」の学習を意図的に取り入れた。 アセスメントの結果から、週1回の取り出し指導を行った。1年間の継続した指導によって「読み」の力の伸びを認めることができた。 現在、発達障害通級指導教室担任であり、高学年でも特殊音節に困難がみられる児童がいる。早期発見、早期指導で子ども達の困り感に対応し、不登校等の二次障害を防ぎたい。 |
| 新潟 | 長岡市立寺泊小学校 | 方向性が同じ作品の比べ読みで、自分と重ねながら 思いをもって作品を読む子どもの育成 | <p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性が同じ作品による選書によって比べ読みをする活動を行ったことで、登場人物同士を重ね合わせ、その変容を読み取ることに有効に働いた。 ・自分で選書した作品の比べ読みによって「マイコレクション」を作る活動を行ったことで、登場人物と自分とを重ね合わせて共感して読む姿につながった。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回教師が与えるばかりでなく、自分の好みに応じて選書して比べ読みをし、コレクションを集めることで主体的な学びの姿が見られた。今後、読者自身が好む方向性の自覚に関わる手立てについて研究を進め、子どもたちの豊かな読書生活へつなげていきたい。 |
| 新潟 | 上越市立南川小学校 | 「語り手との対話」に着目した読みの発達の研究 ～小学校中学年から高学年における段階的な指導の検討～ | <p>【研究の目的】</p> <p>文学的文章の読みの学習における「語り手との対話」の意義が明らかになっている。本研究では「語り手との対話」の段階的な指導の指標を提案することが目的である。</p> <p>【成果と課題】</p> <p>①「語り手に親しむ」を目的とした小学3年の実践を検討した。語り手の視点をういた続き話の創作では、語り手の視点と物語内容との相関が見られた。3年生段階において「語り手に親しみ、語りの概念理解する」という指標は有効であった。②「語り手を問う」を目的とした小学5年の実践を検討した。作品の始めと終わりの語りの変容を対象化し、語り手の意図を追究する姿が認められた。一方、そのような姿は多くはなかった。「語り手を問う」の位置付けについては、今後も検討が必要である。</p> |
| 新潟 | 新潟市立黒崎中学校 | 生き生きとした活動を通して、言語能力を伸ばす指導 ～能動的な読みを促す課題設定の工夫～ | <p>研究における主な手立てと成果</p> <p>(1) 和歌との出会いの工夫 修学旅行の訪問地について詠んだ和歌の紹介、映画の予告の視聴、五色百人一首の実施などにより、和歌は遠い昔に詠まれた自分とは縁のないものではなく、現在の自分の生活と関わっているものだと感じたようである。</p> <p>(2) 学び合いの工夫 友達との交流により、新しい気付きや考えの深まりを目指した。友達に問われることで、和歌の解釈や自分の表現に立ち返り、学びを深めることができた。また、友達の意見や疑問から和歌の新たな魅力に気付いたり、和歌に詠まれたことと自分との共通点や相違点を見いだしたりして興味をもって取り組むことができた。</p> <p>(3) ワークシートの工夫 和歌の魅力を紹介するために、まず「言葉」に注目させ、次に「五感や表現技法」、そして「イメージ」や「作者の思い」へと考えが発展していくように工夫した。そのため、生徒は自分が着目した言葉が作り出すイメージや物語に気付き、言葉によって表現されている様々なことを学ぶことができた。</p> |

| 都道府県 | 学校名・個人 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|--------------|--|---|
| 福井 | 福井県立道守高等学校 | 定時制高校の生徒の意欲を高めるための工夫 ～ICTの活用とメンタルトレーニング、心と体のバランスを中心として～ | ICTについては1人1台のタブレットは無理だったが、スマホを用いたBYODによる実践を行った。特に反転授業のように予習用の動画を作りそれを視聴してから深い内容について考えさせる授業を行い97%の生徒が意欲的に取り組むことができた。また「日常の学校生活の中で行えるICT活用」をテーマに様々な手法、アプリを使ってより効率的、効果的に学校・学級・授業運営ができるように工夫をした。メンタルトレーニングについてはセルフトークや目標設定、音楽療法などに取り組み、ヒモトレや骨ストレッチといういつでもどこでもできる身体のパフォーマンスを上げるメソッドを使い、「心と体はつながっている」ということで、その取り組みの前後で自分の身体がどう変わったかを内観させる方法を使って生徒自身が腑に落ち、自ら取り組めるように工夫をした。また、外部講師による講習会を計4回行い、生徒の興味関心や内観力を高めることができた。これらの手法によって社会科が好きな生徒の割合は最初の14%から70%に、精神面の強さも83%の生徒が上昇した。今後の課題としては、後期のみの実践が中心になったため、年間を通しての取り組みをしていくことで生徒がどう変化したかを見ていくことが今後できればと思っている。 |
| 長野 | 中野市立科野小学校 | 音楽を楽しむ子どもたちを育むための音楽指導のあり方 ～歌わない学校から少人数でも大きな声で歌う学校を目指して～ | 今年度、閉校を迎える子どもたちが、統合一つの目標に「思い」や「願い」を形にする音楽づくりを実践し11月に閉校記念音楽会で発表した。学級や連学年、縦割り班などさまざまな関わりを生かした合唱、独唱、合奏、音楽劇、創作太鼓演奏、縦割りソング、本校のシンボルである桜の木に寄せて全校で歌った「一本の樹」は、子どもの実態に合わせて積み重ねてきた日々の音楽授業や常時活動を生かし、子どもと考え作り上げていくものになった。音楽を通して全校が一体になれた経験、成功させた達成感、互いに聴き合い認め合う経験をした子どもたちが、統合後、自ら考え自信をもって表現していけることを願っている。 |
| 長野 | 長野県梓川高等学校 | 「高校生と満蒙開拓団」 ～地元の歴史から主体的な学びを考える～ | 【研究の成果】 ・地元の戦争の歴史を学ぶことで、「戦争」を遠い存在から身近なものとして捉えることができた。 ・できる限り手を加えずに生徒の主体的な活動を促すきっかけを作ることが、教師の支援として最も重要であり、今回の研究においては、聞き取り調査が主体的活動の鍵となった。漠然とした知識に対して、生の声を聴いたことでその事実が鮮明になり、その歴史を後世に伝えていくことの重要性に気付くことができた。 ・聞き取り調査で判明した事実が、満蒙開拓平和記念館にある資料で裏付けが取れた。さらに発表を通して多くの人に認められたことにより、自分たちが学習したことの意味に気が付けた。生徒たちにとって、学習して身につけた知識を活用することの尊さが理解できたように思われる。 |
| 静岡 | 静岡県立科学技術高等学校 | 高等学校数学Ⅱ「指数・対数関数」の授業実践 ～数学的な活用力の育成を重視して～ | 1 主要な研究成果： 本研究は、高等学校数学科における指数・対数関数に焦点を当て、数学的な活用力の育成を重視した望ましい学習指導のあり方を、実践を通して追究することを目的とした。本研究の結果をまとめると、望ましい指導のあり方として、以下の3点を挙げることができる。 ①□生徒に提示する問題を、生徒が初めて出会うようなもので、かつ解決の必要性の感じられる問題設定とすることは、生徒が意欲的に問題に取り組む上で重要である。 ②□生徒は、数学の問題解決では電卓等を使用しないという意識を持っている傾向があるため、数学の授業の中で、必要に応じて電卓等の道具の使用を日常化することが、数学的な活用力を育成する上で重要である。 ③□問題作りのレポート課題を出すことは、授業で扱った問題を発展させて、自分で解決したい問題を作って考える活動が実現でき、数学的な活用力および活用する態度を育成する上で効果的である。 |
| 静岡 | 静岡市立清水宋原小学校 | 小規模校における低学年・中学年・高学年それぞれの授業の在り方について ～よりよい日々の授業を目指して～ | 小規模校の授業には、明らかに「コツ」があります。大規模校と同じような授業は、全く通用しません。小規模校の特性をつかみ、小規模校ならではの良さを味わいながら授業を行えば、こんなにも素晴らしい授業環境はありません。少子化・過疎化により、全国的に小規模校が増えてきている現在、若手でも小規模校に赴任が多くなってきています。小規模校に赴任し、その良さを存分に味わうために、本研究が寄与できれば、この上ない幸せです。 |

| 都道府県 | 学校名・個人 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|----------------|--|---|
| 静岡 | 浜松市立東部中学校 | 学校体制における養護教諭の役割 ～健康づくりの実践を通して～ | <p>1. 成果と評価 学校評価アンケートの「自ら健康で安全な生活を送ることができるように努めている」という質問に対し、27年度以降、肯定的な回答をした生徒が全体の9割を超える状態が続いている。継続的な保健指導や健康教育の実践などを地道に積み重ね、生徒の健康状態だけでなく家庭生活にも働きかけてきたことで、自分自身の健康について自己管理しようという意識が高まったと考えられる。保護者にも同様の傾向が見られ、「学校は、子供の安全管理や健康管理の取組を十分行っている」という質問に対し、28年度以降、9割を超える状態が続いており、子供の健康・安全に対する意識や学校の取組への理解も高まってきたと考えられる。また、保健室利用者数は年々減少しており、人間関係のトラブルや心身の不調を訴える生徒も減少している。</p> <p>2. 今後の課題 三連休明け、長期休業明け、学校行事明けの欠席が顕著であり、欠席理由の分析から、踏ん張りが利かない、課題が提出できずに休んでしまう生徒が少なくない。また、欠席が長期化する傾向が見られている。今後は、不登校の子どもたちの心の健康にどうアプローチしていくかが課題である。一方、校区の調査では、自分専用のデジタル機器の所持率が年々増加しており、その利用のあり方にも課題が大きいと言える。今後も小中が連携して子供たちの健康課題の解決のために、家庭や地域へ発信し、関係機関との連携・協働に努めていきたい。</p> |
| 静岡 | 静岡大学教育学部附属特別支援 | 特別支援学校高等部生徒Aの行事参加に向けた取り組み ～キャリア発達を促しながら自己肯定感を高める支援についての一考察～ | <p><研究の成果> ・行事参加についてプログラム化したことにより、生徒Aが見通しをもって行事に参加できるようになった。 ・成功体験を積めたこと、咄嗟の判断ができ褒められたことで、「運動会に出れた。」と不安が軽減された。 ・行事に対する不安解消の方略を教師と一緒に考えられるようになった。 ・今回の行事参加についての方略が、他の場面でも継続してできている。 ・自分のことについて(嫌なこと)説明してから人に関わることで、不安になる要素について軽減させることができた。</p> <p><課題> ・行事参加について、どのような形で参加すれば良いのか教師間の共通理解が必要。(我慢させるのか、回避させるのか) ・学校の中で完結できる行事等の活動は参加の可能性が考えられるが、社会に出てからの障壁となりうることについて引き継いでいく必要がある。</p> |
| 愛知 | 愛知県立狼投農林高等学校 | 職業専門科目における主体的・対話的な深い学びの 実践 ～高等学校教科「農業」と言語活動の相乗的教育効果の検証～ | <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力や理解力および論文作成能力などの言語能力をはじめとして、問題解決に必要な知識及び技能と思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養うことが出来た。 ・火星移住や火星生態系構築をテーマとし、主体的・対話的で深い学びに繋がるアクティブラーニング型の高等学校農業教育の実践を行うことが出来た。 ・専門領域の深化と生徒の基礎学力との調和も図り、発達段階等に応じた指導の充実にも繋がった。 ・産業教育と言語活動が互いにフィードバックし、校外への発信も含め有機的な発展があった。 ・対象生徒を広げても対応・発展可能な教育プログラムづくりを今後の課題としたい。 |
| 鳥取 | 日野町立日野中学校 | 1人で悩まない抱え込まない部活指導 ～競技力と指導力をみんなで高める取組～ | <p>①成果 STEP-0がスタートした2018年10月から約半年間で7回の練習会を実施することができた。毎回、100名～220名が集まり、リピート率は100%の人気の練習会となってきている。参加者の反応からも、選手・指導者・保護者のすべてが喜ぶ取組となっていると言える。</p> <p>a) 生徒の助けになった 1. 西部地区中学生競技者の競技力向上 2. ソフトテニスの楽しさ面白さを味わい、向上心を育む</p> <p>b) 顧問の助けになった 1. ソフトテニス競技の指導力向上 2. 指導者が1人で悩み抱え込まないための繋がりづくりを達成することができた。</p> <p>②今後 中学生の生徒数、選手のレベル、ソフトテニス部部活動顧問メンバー、学校教育における部活動の在り方、ソフトテニス競技の流行は常に変化していく。発足当時の目的に立ち返りつつ、時に形を変えながら「生徒と部活動顧問の手助け」となる会を目指したい。</p> |
| 岡山 | 岡山県立高松農業高等学校 | 「ミツバチ教材」のポテンシャル ～新学習指導要領に沿った農業・環境・地域・キャリア教育の実践と可能性～ | <p>①生物・農業・環境教育としての教育的効果 ・地域の飼育者や関連機関等との関わりによる学習は、生徒の成長にとって非常に有効なものとなった。 ・ESD教材として、自然環境との関係性を認識した教育活動が実践できた。</p> <p>②ヒューマンサービス活動・キャリア教育教材としての教育的効果 ・的確な実践力、マネジメント力、コミュニケーション能力、体力、忍耐力の習得が効果的になされた。 ・他者に評価されることは、生徒の自己肯定感や達成感の育成になり、次代の学習指導方法「アクティブ・ラーニング」につながった。 ・小・中学校、特別支援学校、大学等の校種での教材化も十分可能で、「総合的な学習の時間」、「地域学」、「環境教育」として活用すれば、そのポテンシャルは高まると思われた。</p> |

令和元年度 教育研究助成応募【個人研究】

| 都道府県 | 学校名・個人 | 研究主題 | 主要な研究成果 |
|------|-------------|---|---|
| 山口 | 光市立光井小学校 | だれもが主体的に取り組む授業づくりをめざして～総合的な学習の時間の単元始めに焦点をあてて～ | <p>1 研究主題の主要な研究成果</p> <p>(1) 成果: 子どもの課題への対象へのかかわり方が、学習が進むにつれて、自主的かつ意欲的に変容した。</p> <p>・例えば、梅を漬けたピンを毎日ゆする活動を仕組もうと考え、「毎日ゆすると美味しくなる」という情報のみを伝えたことがあった。そのことをきっかけに、当番活動を行いたいという動きが子どもから生まれた。このように、子どもにとって魅力のある活動や課題意識がもてるような仕掛けをし、子どもの動き出す機会をとらえることで、子どもが主体的に学ぼうとする流れを作り出すことができた。</p> <p>(2) 課題: 子どもの実態や一人ひとりの思いや願いにより合うような単元に修正すること。</p> <p>・前述のように、学習が進むにつれ、子どもたちは意欲的になっていった。しかし、具体的に活動に入ると困難な場面に多く直面していった。例えば、ケーキを作るという活動である。子どもに魅力あるものと考えスイーツ作りを設定していたが、ケーキ作りに関する知識や経験が少ない子が多かった。そのため、個人差を埋めていくために、時間を要する結果となった。これでは、本来乗り越えるべき課題解決にかかる時間が少なくなった。作るものを梅ジュースにするなど、もっと、目の前の子どもに合った活動が主活動となるように設定していく必要があった。</p> |
| 福岡 | 福岡県立伝習館高等学校 | 柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究～自然科学部の活動から実体験の重要性、人と自然との繋がり的重要性について～ | <p>伝習館高校自然科学部は国際自然保護連合からニホンウナギが絶滅危惧 I B類に指定された2014年から水と人の関係が江戸時代から続いている柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにするための研究と活動を行っています。令和元年12月までにシラスウナギを4102尾特別採捕し、伝習館高校で0.5g以上になるまで飼育し、3133尾柳川掘割に標識をつけて放流しました。放流はシラスウナギの成長に合わせて年間4回行っています。放流直前には、石倉かごを使った生物モニタリングを行っています。生物モニタリングは、堀に入って作業しますので、冬季の作業で使用するドライスーツを助成金で購入させていただきました。私たちの活動は地域創生と未来を担う子供たちの育成にも大きな成果を与える可能性があるため、これからは地域との関わりを中心に研究を進めていきたいと思っています。</p> |
| 宮崎 | 西都市立銀上小学校 | Outputの質を高め、問題解決力を伸ばす算数科の学習指導～割合学習へとつながる除法の指導を通して～ | <p>「問題場面を絵や図などの情景図、線分図、関係図、言葉などで再構成する力(outputの質)を高めながら、学び合う場面を設定することにより、計算の意味理解が深まり、問題解決力を伸ばすことができた。「小数の除法」の単元で研究を進めた。また、児童が自ら問題を作成する活動を積極的に取り入れ、互いの問題を解答する学習に取り組ませることで、問題場面的に捉える力も育成することができた。一方、割合において基準量を「1」として捉え、その比較量が1以下の小数点になる場合の理解を図ることが難しい。継続してoutputの質を高める指導の在り方を追究し、問題解決力を伸ばしていく必要がある。」</p> |
| 鹿児島 | 指宿市立丹波小学校 | 時代の要請に応え、使命感と指導力を高める現職教育 | <p>1 グランドデザインや共通実践項目10、学級経営案をはじめ、全ての実践や取組に評価を取り入れ、それをもとに、新たな改善策や一改善を全職員で考え推進したことで、職員の学校運営の活性化に関わる姿勢に変容が見られてきた。</p> <p>2 学校独自の学力向上アクションプランの実践では、授業観察と個別指導・面談、校長室だよりによる職員への称賛激励などで指導力向上が図られた。</p> <p>3 行内研修では、毎月の研修計画、全職員による指導案作成、模擬授業、授業の見どころの提示、グループ討議を取り入れた授業研修、研修だよりの充実を図ったことで、全ての教師の授業力向上、児童の発表力・説明力の向上が見られた。このことで、教職員一人一人が自己の資質や指導力の向上に取り組むことが重要であること、児童や保護者の信頼に結びつくことを再認識した。</p> <p>4 家庭と連携したスマイルウィークの取組、定期的な家庭訪問などによる保護者との面談を通して、保護者の学校や担任に対する期待や要望などを具体的に把握できた。また、その期待や信頼に応える努力が、職員の使命感や職責感を伸ばすことに結びついている。</p> |